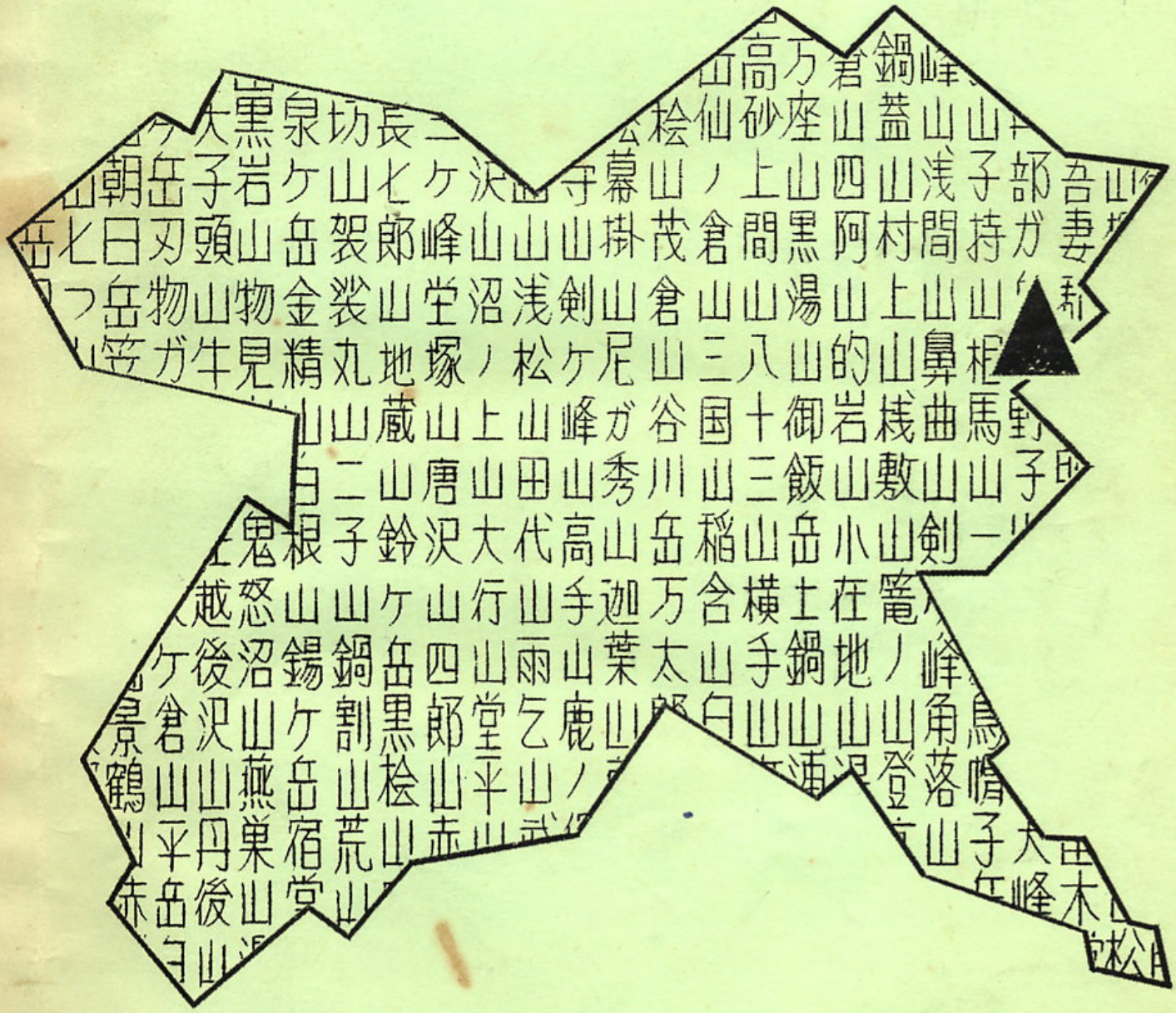
皇海'67



群馬大学工学部
ワンダーフォーゲル部

4号

巻頭言

皇海によせて

部長　江黒　茂

部誌「皇海」4号をここに発行する。内容は41年12月から42年11月までの部員のワンデルングの記録である。我が部もすでに創設期を過ぎ，ここ一両年以来第2段階に入ったものと考えられる。群馬県内を部員の足跡で埋める目標は主なるコースは遂行され，これからは県内にはより深く，県外にはより広くワンデルングするものと思われる。特に足尾地域が我が部のホームグランドとしてこれからも長期的な計画のもとに，常に最前の目標の1つとして，進められることに期待したい。

今年吾が部の立てた計画は大略において不成功に終ったと言える。春，夏合宿，公ワンしかり，文化祭，トレーニング等の部員の自覚を見ても，それは明らかである。その原因を考えるに，部員全員の技術と経験，部に対する認識の浅いことに求められるのではないだろうか。「歩きながら考える」と英国人を褒め，「考えてから歩く」とフランス人をいましめ，「歩きだしてから考える」とスペイン人を馬鹿にした言葉がある，理想としては，英国人の様にするのが最良であろう。しかも，現在の吾々に必要なことはスペイン人の様にまず行動することではないか。ワンデルング経験の少い吾々はまず歩いて歩きまわるべきである。その結果自分の心に積み重ねられてくるものが，真のワンゲル観であり，それこそ部を，より前進させる推進力と成り得るものである。ワンゲルにあって行動は常に理論に先んずるものであり，そうでなければ，予定どおり”の結果は決して生れてこない。

又，このクラブは運動部で言う，練習と試合の区別がはなはだつきにくいクラブである。従ってあるリズムに部が慣れてしまえば，それが良かれ悪しかれ次にその傾向を強めて生き，後を返りみる機会はほとんどない。そしてそのリズムの生れてくるのは，キスリングを背負わない通常の生活からである。集団社会に住む人間が自然を求めて造りだしたワンダーフォーゲルであるのに，吾々はワンゲルと言うと，合宿と個人のワンデルングのみと思いがちである，しかし，日常の生活，行動，そして平地での訓練もワンゲル活動と一体である。平地での自分とワンデルングでの自分が区別されてはいけないことである。常に街にあっては山を思い，自らを知る努力に精進することこそワンダーフォーゲルの目標と考える．

この4号は，普段部活動に転機をつけにくい吾々にとって，良い布石になると思う。運動競技で，敗戦をかみしめて，それ以後のスタートとする様に，この部誌から自分に何かを見い出して，それをワンダーフォーゲル活動に生かしたい

目　次

巻頭言　「皇海によせて」 …… 1
冬合宿（上ノ原スキー場） …… 4
春合宿（扶父） …… 5
　北八ヶ岳縦走 ― 新四年春合宿 ― …… 7
新人合宿（庚申，皇海山） …… 14
第5回公開ワンデルング …… 14
　公ワン偵察 …… 15
　鬼怒沼方面 …… 16
　尾瀬沼方面 …… 16
夏合宿 …… 17
　準備段階 …… 17
　夏合宿偵察（平ヶ岳隊） …… 18
　〃　（朝日丸山隊） …… 19
　平ヶ岳隊 …… 22
　朝日丸山隊 …… 25
　定着隊 …… 29
　定着中の行動 …… 29
　　赤田代調査 …… 30
　　花沼湿原 …… 30
　　長須ヶ玉 …… 31
　　大江山 …… 31
　　無名田代 …… 31
　夏合宿の天気 …… 32
秋合宿 …… 34
　浅草岳・守門岳 …… 34
　赤薙山 ― 男体山 ― 半月峠 …… 34
　巻機山 ― 苗場山 …… 35

分散ワンデルング …… 37
日光湯元スキー …… 37
三国山スキー …… 37
巻機山スキー …… 38
尾瀬スキー …… 39
雁氷峠 ── 峰の茶屋 …… 40
浅間山 …… 41
方塞山・古峰ヶ原 …… 41
尾　瀬 …… 42
白毛門・朝日岳 …… 42
水戸・水郷・南房総方面サイクリング …… 43
東大雪縦走 …… 45
八ヶ岳本峰縦走 …… 45
秋田駒・岩手山 …… 46
浅草岳・守門岳 …… 48
志賀高原 …… 49
奥鬼怒及び奥日光 …… 51
松島・蔵王・猪苗代旅行 …… 52
神津・荒船山 …… 52
苗場山 …… 53
袈裟丸山 …… 54
庚申山 …… 54
稲含山 …… 55
玉原越 …… 55
吾妻耶山 …… 56
編集後記 …… 57
部員住所録 …… 58

冬合宿

上ノ原スキー場

12月25日

水上でバスに乗るのに、我々十数名と、熊高山岳部パーティが一緒となったため非常に苦戦。バスの中央迄荷物の壁となり，まわりから押えるのに骨をおった。上の原山の家には、クリスマスツリーなどがあり　多勢の人々がウロウロしていたため〝合宿〟という我々の目的が達せられるかどうか、リーダー達は内心心配する。スキーの方はコーチ人選難でまずは足うない程度。

12月26日

他人もいる所なので、部員としての自覚と合宿であることを強調したためか、夜も活気なし。朝は、ピチッと当番、一般部員の順に起床。しかしゲレンデに出る所でグズグズする者あり。ゲレンデでは終日、シュテム系とプルーク系の　　にぎやかなり。昼食はたしかに昨年（下の民宿泊りだったので弁当持参）と比べ便利、快適，各食事の時は皆テント同様他人の目もはばからず、悪口をたたきながら手と口は休めず、生存競争はきびしい。夜はいくらかにぎやかになったとはいえ、各自まだまだネコをかぶっている模様。

12月27日

朝の食当あたりにタレる者出現　ゲレンデに集合する時刻はほとんど守られず。遅れるメンバーは，昨日と同じ。ゲレンデでは相変らずシュテムとプルーク。ただしプルーク系ち大多数の者が、多小なりともシュテムを始める。今シーズン初めて始めた者もかなり上達し、コーチ不足を克服し2シーズン組をおそれさす程なり。夕方も切り上げてコタツに入る者あり。リーダーとして食事の時注意する。グズグズ言ったため皆に遠慮してリーダー達はストーブを囲み、他の者はコタツで何やら。しかしこの晩タタミ2枚をこがす。各自の自覚はまだ不足だったらしい。

12月28日

山の家には他のパーティあまりいなくなる。朝食は魚を焼くため遅くなる。1つ1つ焼いたりする物はさけて、すべて煮て間に合う物が都合良き様子なり。スキーの方はほとんどみんなシュテムと斜滑降なり，たまに横スベリやパラレル系を用いる者もあるが、思うようにはいかぬ様子。昨日メキメキ上手になった今シーズン組も頭うち。雪の量は我々が来てからも増え続け、ゲレンデの大岩もほとんどかくれてしまった。これでジャンプ台もなくなった，夜は昨夜のタタミをこがした事にこりてか皆元気なし。

12月29日

朝のうちに一すべりして10時で切り上げる。食料係として各食事の時必ず立合った2年生2名のおかげで各食事もスムーズに行き合宿最後の食事も無事済ます。帰りは宿の人に「振いて下るなんてもっ

たいない」と言われながらも歩いて下る。しかし下は大雪のためのバス間引き運転で約1時間待たされる。大事故は何もなかったと内心喜びながらも、何かしら他の合宿の時と違った感じを抱き、又昨年からの問題である合宿中スキー一辺倒という事が何ら解決されずに今年も終ってしまった事をかみしめての1時間であった。

春 合 宿

扶 父

3月19日 ～ 3月23日

3月19日 ○→◎

桐生 (6.40) ═══ (7:43) 高崎 (7.54) ═══ (10.17) 拝島 (10.30) ═══ (11.30) 氷川 (12.05) ═══ (12.46) 鴨沢 (13.00) ── (13.30) 御殿 (13.35) ── (17.10) 三条湯 ⛺

横山は桐生、斉藤は伊勢崎、小沢は高崎、原、江黒は寄居から乗車し、寄居をすぎてから初めて全員が顔を会わせた。ちょうど月曜で拝島からの電車はひどい混みでう人は別々の乗車口から荷物をやっと車内へおしこんだ。しかし氷川へ着くころにはかなりガラガラになった。氷川からバス。奥多摩湖方面へ向かう登山者は私たちの外には6～7人であった。ここの西東京バスはめずらしく荷物代をとらない。いよいよ鴨沢から歩きだった。このあたりでは家のすぐ後ろにそびえ立ち、重々しい圧迫感を与える。また、急な斜面の中腹にポッツンと家があったりして私達は度胆を抜かれた。雲行きが悪くなって来たので、路々、テントの張れそうな所を記憶しながら谷沿いの林道を進んだ。トレーニング不足もあってかなり疲れたが夕方5時過ぎに三条湯に着いた。タメシはラーメン。原がラーメンとメシをミックスして食べたが、これが残ったので辺りにいた犬にやったら犬は見向きもしないで行ってしまった。どうやら我々は犬も喰わないようなものを食っているらしかった。6時過ぎに暗い空のはてから風花がかなり飛んできた。

3月20日 ○

三条の湯 (7.25) ── (11.05) 雲取山頂 (11.50) ── 雲取りヒュッテ ── (12:05) 大ダワ (12.10) ── (14.10) 芋の木ドッケ (14.20) ── (15.00) 白岩小屋 ⛺

4.00起床の予定だったが、5.10まで寝すごしてしまった。7.25出発、かなり急な道をワンピッチ程登ると後はやや急な道がだらだらと続く。ところどころに残雪があり、一二カ所かなり滑るところがあった。雲取りと飛竜との分岐点からは少しきつい登りとなった。残雪が踏み固められてあってひどくすべる。靴のばかでかい原以外は江黒の4回を筆頭に全員すべってころんだ。雲取山頂でメシ。下りはやや原生林的な感じのする林の中を下った。ものすごいアイスバーンでアイゼンを持参しなかったのがおしまれる。とに角、注意してのろのろと下ったがさすがの原でさえも一度転倒した。大ダワ

をすぎて行くと、今度は山腹をまくアイスバーンの道だ。一歩踏みはずすとV字谷の下まで行きそうな感じで、ピッチは全然上がらない。ひどいぬかるみの芋の木ドッケを過ぎてひどくすべる雪の上をのろのろと下ると白岩小屋であつた。原と小沢が水をくみに沢へ下ったが水場がほとんど凍結してしまっていて、50分ぐらいたってから登ってきた。夕食はカレー、ミルク……

3月21日 ◎

白岩小屋（7.35）――（9.15）お清平（9.35）――（9.53）霧藻が峰（10.09）――（11.43）三峯神社――（13.20）二瀬――（15.30）大久保 ⛺

白岩小屋からはだんだん積雪が増して苦戦。アイゼンを着けた人が我々を追いこしてたちまち視界から消え去った。道は凍結していて危険なので、できるかぎりヤブコギをして下った。お清平の手前のピークの下りが今合宿で最も苦戦した下りであつた。路面はカチンカチンだし、ヤブをこごうとしてもそんなヤブはなく、わずかな岩や根を手がかり足がかりとして下るより他がない。それでもおっかなびっくりどうにか全員、無事に下ってほっと一安心。ここで雪にコカラップと砂糖をぶっかけて、しばし山の味(?)を味わった。ここから逆の道を抜けて尾根に出ると霧藻が峰だった。ここから先はハイヒールでも登れるハイキングコースであった。三峰神社からは二瀬ダムへ下り、そこからチンタラチンタラ広い車道を下った。テントの張れそうな空地は全然見当たらないのでキョロキョロしながら下って行くとどうにか畑と河原の間の空地にテントがはれそうなところがあったので整地してテントを張った。今夜から明朝にかけて雨が予想されたので溝をよく掘っておいた。夕食はヤキソバとモチ。

3月22日 ⑧～⑨～①

朝5時ごろ強の音さで起るんだテントで朝食を済して全員が目をさました。昨日の天気予報では雨のアとだったのに、ふたを開けてみたら雪だったのだ。気圧配置は冬型となり、しかも風邪をひいているものが多くなったので相談の結果、二子山、天丸山の方はあきらめて全員が明日帰ることにかり今日は停滞することになった。田中は来年度のクラブの行き方について話し合った。

3月23日 ①～⑩

大久保（8.20）――（11.15）三峯山（11.58）――（13.33）寄居（13.30）――（14.15）高崎

大久保から三峯口まで ロード。バスの通う舗装道路をまめで痛んだ足をひきずりながら歩くのは精神的にもつらい。ロードに強い江黒先生には遅れ、ともすると見えなくなってしまう。三峯口からは秩父鉄道を利用し、埼玉の者と群馬の者とがここで別れた。

北八ヶ岳縦走 ― 新四年春合宿 ―

地域：北八ヶ岳（中山峠 ～ 蓼科山）

日日：3月27日 ～ 4月2日

メンバー：草場、横尾、藤井、久保田、小島、

〔計画立案から実施まで〕

残雪期と云うよりは、積雪期に含まれる北八ヶ岳に出かけようという話が始ったのは、昨年の新三年強化合宿（春合宿）で西上州、南佐久地方をワンデルングして、野辺山、清里近辺の八ヶ岳高原を歩ったが、その時に眼前に初いが雪をいただく八ヶ岳の横岳、硫黄岳、赤岳、権現岳等の峰々の神々しさに魅れ、登ってみたいという願望にかられた時からだ。又合宿の帰途の小海線の車中で、丁度その時小海を中心として開かれていた全日本学生ワンダーフォーゲル連盟主催の全日本合同ワンデルング参加のWV部員達の帰りと一緒になり、我々にもある程度は3月末期の北八ヶ岳をも消化できるだろうと思った。そこで、偵察をかねて前年の10月、秋合宿として八ヶ岳全山を大河原峠より編笠山まで縦走した。その後、今までの記録を、岳人講座、岳人、山と渓谷、ガイドブック等より集め、積雪期の八ヶ岳連峰の気象や様子、積雪状況を知った。合宿日数は予備日を含めて6日とした。気象変化により当然停滞は予想されるが悪天候が長く続いた場合は、計画を断念し下山することにしたので、予備は一日とした。装備は冬用テント（5人用、内張、フレームつき）を使用した。個人装備は各人、ピッケル、ストック、ワカン、スキーを使用した。食料はカロリーの高い脂肪や蛋白質含有量の高い物を予算の許す限り携行した。積雪期であるので荷物の軽量化には特に注意した。中山峠への入山コースとしては、佐久側と諏訪側とがあるが積雪期は圧倒的に諏訪側のようであるが日君が一度通ったことや、経済上の理由から佐久から入山することにした。行動計画の概略は次の通りである。

第一日　桐生（前夜発）═══ 小海 ═══ 稲子湯 ― ミドリ池 ― 中山峠 ― 黒百合平 ⛺

第二日　⛺ ― 中山 ― 高見石 ― 丸山 ― 麦草峠 ⛺

第三日　⛺ ― 茶臼岳 ― 縞枯山 ― 雨池山 ― 三ッ岳 ― 横岳 ― 大岳 ― 双子池 ⛺

第四日　⛺ ― 双子山 ― 大河原峠 ⛺ ←→ 蓼科山ピストン

第五日　⛺ ― ゴト水 ― 白田 ═══ 桐生

第六日　予　備

〔計画実施〕

3月27～28日　◎→①

桐生（22.24）═══（23.21）高崎（1.35）═══（3.57）小諸（5.19）═══（6.36）小海（7.25）═══（8.10）新開（8.15）―（9.40）稲子湯（10.10）―（12.00）林道終点（12.20）―（13.45）シラビン小屋休憩（14.00）―（14.45）⛺

小海線の一番で小諸より小海へ向かう。小海には長野原警の発山カードがあり、予定コースを記入し、バスを待つ。小海は南佐久地方の中心地であり、ここから去年おとずれた。　白岩部落へのバスも　出ている。登山カードには四方高原や、御座山登山の記入も見られた。稲子湯行きのバスはまだ

雪がとけぬため、4キロ手前の新開までしかはいってゆかぬとの事なので、予定の狂うことを感じた。バスは千曲川沿の道から八ヶ岳高原台地へと登り、水面の出ている松原湖のそばを通る。ここからGWV5名のみが乗客であった。　ガスのため5メートル先も見えぬ中をバスは走り、開拓部落であるう新開へと着いた。所々にコチコチに凍った雪があった。ガスでまわりは何も見えなかった。バスストップの側の農家の庭先にホルスタインが二・三頭居た。今にも雨が降り出しそうな天気であった。新開から稲子湯まで約4キロ、大日川に沿った道を歩き始める。三十分程は平坦な道であったが、やがてクネクネと折れ曲り、高度をかせぎ出した。道の両側に雪が現われる頃　フウフウいいだした。時々ガスの切れ間に真白の峰々が見えると、　あの山はどこだとかいいながら、地図を開げては休み時間の引延し策をこうじる。稲子湯は　近代的な、宿泊費の高そうな温泉だった。主人に　これから先の雪の状況、ナダレの注意（特に山中峠手前の急斜面）を聞く。ここで昼食とする。湯をひいたパイプ沿いの道を赤布をたよりに登ってゆく。なだらかな伐採した草原の傾面となり、蛇行している林道を何度も横切っては登っていった。この辺は日当りがよいのか雪が消えていた。眼下には松原湖が小さく光っていた。林道は右手の山腹を巻いて、ニュウのすそを回り、ソフィアヒュッテから白駒池に向っていた。この分岐から雪が多くなってきたので、全員スパッツをつける。傾斜も急になり高度はグングンかせげるのだが、雪も多くなり、初日の荷重と夜行の疲れのためか、ピッチは上らず眠たくてしょうがなかった。後ろをふり向くと千曲川をはさんで、四方原、御座の峰々が黒々と見られた。道は樹林帯に入り薄暗くなり、急に寒さを覚えたが、雪は凍ってうずまることもなく、順調に　歩けた。目ざすシラビソ小屋の二百メートル程手前に、斜面をトラバースする所があるが、2時近くになっていたので、雪が腐ってベトベトになり、わずか　二十メートルを通過するのに、雪が胸までもおちこんでしまい、二十分間も要してしまった。この調子ではとても中山峠までは無理と　ミドリ池泊りにしようと思った。やっとシラビソ小屋にたどりついた。小屋にはじいさんが一人、火にあたっていた。「どこかTSに適した所はないですか？」と尋ねると、「ここは国立公園だから幕営禁止だ！」とあっさりことわられてしまった。プリプリしながらもう少し先まで行くことにする。ミドリ池は全面雪の下、中心に旗があって、池の存在を示していた。この附近は伐採されていて、　トーレスもはっきりせず、ルートの選択に苦労する。雪もベトベトになり、ブスブスはいりこんでしまい、歩きにくいこと、このうえないので　アカンをつけて進むことにした。　それでも　七ヶ岳までは、簡単にうずまった、やっと風当りの少ない樹林の側の平地をTSときめて設営した。このTSからは南に、硫黄岳の旧火口壁が雪も全然つかずにあり、真正面には、天狗岳東壁がそびえ、何本かのナダレのあとも望まれた。全員バテ気味なので、夜は夕食をたべるとさっさと寝てしまった。

3月29日　○

T.S（6.45）―（7.15）2160m地点（7.25）―（8:45）中山峠（9.05）―（9.50）中山（10.35）高見石（12:10）―（12:30）丸山（12:35）―（13:45）麦草峠合

中山峠手前の斜面を、雪の凍っているうちに通過してしまおうと、全員ハッスルして起きる。天狗岳

には朝日が照り、モルゲンロートに輝いていた。空の青さ、ゴンフに染つた山肌を印君八ケ八ケと呼んでいた。中山峠へのルートは右手に取り、森林帯の中へ入つてゆく。今日は最初から、オーバーズボン、スパッツ、ワカンをつける。やがて目の前に稲子岳の南壁がそそり立つて来た。その横に沿つて道はあつた。南壁には全然雪はつもつていなかつた。しばらくはなだらかな力で、ピッチは快調に延びる。天狗岳から流れおちた沢をナダレが落ちないように横切ると登りは急になり、森林帯の中をジグザグにつけられたコースを行く。汗をかき、バテてくる。稲子岳と高さを競争するようになり、峠の手前で頂上が見おろせるようになつた。この辺から中山峠までの高度差150メートル位の所が最も急であり雪も深く時々胸までもはまりこんでしまい、疲労度ははなはだしかつた。急に風が強く吹きつけるようになり、やっと目指す中山峠にたどりついた。全員しばしがっくりして動かず。口にチョコレートを入れ、ほろにがい味にやっと正気になり、おもむろに周囲をながめだす。南には、真白で少しの汚れもない天狗岳があり、△のある西天狗岳は丸く女性的に、縦走路のある東天狗岳は男性的に、そして東側には急崖をかけていて、雪庇も出ていて、いまにも落ちそうになつていた。稲子岳の左にはニュウがあり、その東には南佐久から奥秩父の山々が黒々と横たわつていた。この中山峠は南八ケ岳と北八ケ岳を分ける所にあり、すぐそばに黒百合平がある。諏訪側からは簡単に入れるので、人通りの多い地点で、諏訪側への道はきれいにラッセルされていて夏道と変らず。諏訪と佐久の違いをまざまざとみせつけられた。これから進路を北にとり、中山を目指す。中山への道は右手が崖になつていて風当りもよいので、コチコチに雪が凍りすべってしまい、ヨチヨチと歩いてゆく。道は夏道と同じで、ラッセルされて、みぞのようになつており、非常に歩きよかつた。中山山頂は大きな岩がゴロゴロした、展望も、風当りもよい所であつた。山頂よりはじめて、これから踏破する北八ケ岳連峰が全部見渡せた。さらに北アルプス、御岳、乗鞍岳、中央アルプス、そして南八ケ岳がみられた。ここで昼食をとつた後、高見石へ向かう。ここも歩きよいコースであつた。この付近は陽もさしこまぬほどの、はてしなく続く樹林地帯であつて、雪を踏みしめながら歩く。3月の北八ケ岳には冠雪の時とは又異つた趣きがあつた。高見石は北八ケ岳の中心地であり、テントが小屋のまわりに3つはられてあつた。そばの高見石に登ると、眼下に、森の中の目のような白駒池があり、全面雪におおわれ、スキーのトレースが一本、池のまわりにあつた。噴煙なびく浅間山、その左には高峰高原、四阿山があつた。東にはなつかしの四方原山、茂来山があつた。高見石から丸山へはわずか。丸山には△があり真北には雨池がみられた。丸山からは樹海の中を泳ぐように麦草峠へ下つていつた。この辺が北八ッの森林美の核心地であり、静かにしずまりかえつていた。丫君はさかんに「いーいー！」とうめいていた。今夜の宿泊地麦草峠はもうすぐそこであり、のんびりと歩く。この峠には、ゆるやかな草原と、佐久と諏訪を結ぶ道路が横切つていた。道路上の雪はもうとけていて、春の息吹きを感じさせた。峠の中央あたりに麦草ヒュッテがあり、一筋の煙が立ちのぼり、人間の存在を知らせるようであつた。小屋には東京町田市の黒百合山岳会2名がおり「番人はいないから、小屋を使用してはどうか」との申し入れがあり、「それでは」と小屋を利用することにした。まだ夕食には時間があるので

小屋に備えつけのスキーを借用して斜面をひとすべりした。この峠を基地にしてあちこちにスキーで出かけるのも又趣きがあり，コースは幾種類もあり雪の森林彷徨が味わえるであろう。小屋のストーブに薪をくべながら，ウィスキーをちびちびやりながら黒百合山岳会2名と、あとから来た高校生2名と，色々と山や自然の話をランプの下で話し合った。

3月30日　◎→●

今（5.50）―（7.10）茶臼山（7.30）―（8.10）縞枯山（8.30）―雨池峠（9.30）―（9:55）雨池山―（11:00）三ッ岳 P_1（11:35）―P_2（11:45）―P_3（11:55）―（12:40）北横山ヒュッテ今

麦草峠以北はトレースががっくりと減ってしまいルート捜しに注意を要す。今日はテントの撤収がないので出発が予定より早かった。小屋から4名の見送りをうけて出発。大石峠はどこだかわからずに通過。茶臼岳へは森林帯と伐採地の境目を行く。雨が降り出しそうな天気であった。茶臼岳山頂からは　縞枯山が目前に名前の通り，縞模様を見せていた。眼下には蓼科高原が広がっていた。△からコースを右にとり，切り開きを鞍部めざして下って行く。コルから縞枯山へはトレースもはっきりせず，夏道からもはずれ，右手にルートを取りすぎたために、ハイマツと岩石帯を登らされた。頂上付近は平坦で，細長くのびていた。我々はここからルートを尾根からはずれて，右の平坦地（クボ地）にとりすぎたために，最初は歩きよかつたが，雨池峠へ下りかけてから森林帯へ入りこんでしまい，雪もフカフカで，ズブズブ入るし，スキーをかついだ江君は通過に特に苦戦したようであつた。しばらくして，防火帯の切り開きに出たので，ホッとした。雨池峠一帯は倒木が，おり重るようにあったが，大部分は雪の下にうずまっていたので，前年の秋よりは，歩きにくくはなかつた。雨もふりそうな天気となり，これから先が案じられた。峠より雨池山へはわずかな登り，この辺からはトレースもほとんどなくなり、わずかについている赤布をたよりにゆく。雨池山と三岳の鞍部から三岳への登りは急なうえに何の手がかりもなく、左側はスッパリと切れ落ちていて，危険このよもないので苦戦する。三岳山頂までやっと登り切る。山頂の手前で，早大ハイキングクラブ員2名と出合う。蓼科山から縦走してきたとのことであった。ガスも立ちこめ，風もはげしくふきつける天候となり，予定の双子池までは無理だと思う。三ッ岳の3つの溶岩でできた赤峰は慎重に通過した。岩場一帯は風により吹きとばされて，割れ目に少し雪が入っているだけであった。荒々しい岩肌を示していた。北には大岳がすぐ目の前にあった。三岳，横岳間は実に複雑な地形をつくっているので赤布とトレースを求めながら通つた。目指す横岳は目前にありながら，なかなかつかず天候はますます悪くガスが激しく吹き出して来て，双子池まではとても無理と判断し，北横岳ヒュッテ泊に決める。ようやくたどりついた横岳ヒュッテには屋根まで雪がつもり，戸を開くのに雪を除去したりして、30分経してやつと中に入れる始末だった。番人は秋に下山していて，誰もいないので，ありがたく一泊させてもらうことにした。2時過ぎからは天候は増々悪くなり，雨もはげしくふり出して来た。テントと違って広々とした小屋なので，のんびりと手足を伸ばすことができた。天気図をかくと低気圧の通過と分り，明日は沈殿ではないかと思いながら，広々とした小屋の片すみでねむりについた。

3月31日　㊍

4時に起床したが、風をともなつた雨と雪がはげしく降り、とても行動は無理と判断し、沈殿と決めて再びシュラフの中へもぐり込んでしまった。7時頃おき出し、朝食の用意をし、食べ、11時頃昼食4時頃夕食をたべた。一日中食ってはねてのゴロゴロしたくらしをした。夕方近くになると、もう話すタネもつきてしまい歌をうたったりして時間をつぶした。K君は風邪をひきそうだと早くからシュラフに入り、Y君もふてくされて、シュラフの中へ入り、K君は一日中ストーブの火もしをやり、K君は一日中たべてはねむり、F君は山日記をひっくり返しては見るというように思い思いにすきなことをしてすごした。広い小屋の中にとじこめられての快適な沈殿の一日である。

4月1日　①

☆(6:10)―(6:30)横岳△(6:35)―(7:35)大岳(7:40)―(8:15)天狗の露池(8:25)―(8:55)双子池(9:10)―(9:40)昼食(10:15)―(10:30)双子池(10:40)―(10:50)大河原峠(11:35)―(13:25)小屋―(13:55)蓼科山(14:30)―(14:50)小屋(15:00)―(15:55)大河原峠★

今日こそは行動したいという意欲にかられて朝食の用意も食事もパッキングも快調に進む。天気も回復のきざしをみせはじめてきた。二泊世話になつた小屋の中をきれいにそうじして感謝の意をこめて北横岳ヒュッテを出発した。横岳へはわずかな登りでついた。北八ヶ岳の盟主であるこの横岳は南八ヶ岳の横岳とは違つた山様を示していた。山頂付近は雪が風でふきとばされて地肌が現われていた。背後には、今まで通つて来た峰々が黒い樹海の中にひっそりとしていた。山頂からの眺望天下一品なり。白銀に輝く日本アルプスの峰々が朝日に輝り輝いていた。横岳からの下りは夏道とは別のルートをとる。ハシゴも通らずに、あまり危険の場所もなく、予想より簡単に通過できた。右手には北横岳ヒュッテの赤い屋根がみられ、その手前の凹地にはヒッチ池があつた。大岳山頂へは、稜線より少しはずれているので、分岐に荷物を置いて、ピストンすることにした。大岳から三ッ岳はすぐであつた。森林帯を下り、双子池へ向かう。途中の天狗の露池は、岩の間に雪がつまっていて無雪期より歩きよかつた。双子池までの道は、熔岩流の上につけられているが、全部雪にうずまっていて、ふみぬくと、胸位まで入りこみ、すべったり、ひっくり返ったりして全員雪ダルマになって双子池に着く。雄池も雌池もカラマツ林の中に静かにあつた。秋の紅葉の中のカラ松林も見事なものであつたが、雪の中のカラ松林も又格別の味がある。しばしアメなどをしゃぶりながら春の陽光をあびてダベリング。まっすぐ天に向ってのびたカラ松林を双子山めざして登ってゆく。トレースは消えているので赤布をたよりにゆく。頂上手前で昼食をとる。双子山の三角点はすでに現われている。この辺は風のためか、地面が多く現われていた。春を満喫しながら、のんびりと大河原峠へと下ってゆく。大河原峠は深田久弥の文章で有名な、今は静かな峠である。しかし無雪期には国鉄バスが入っているので昔のおもかげはない。峠にある小屋の中にまで雪がふきこみ、とても利用できるものではなかつたので、小屋の裏手の雪のとけた草原をTSとし、殷営後蓼科山をピストンすることにした。トレースはほとんどない。最初からワカンを、K君はスキーをつけて進む。　荷物がないのでスイスイ進むことができる。

2300メートル地点までは急な登りで、木の間をくぐりぬけながらゆく。稜線にでてしまうと平坦な尾根道となり、切り開きがあり、営林署の赤いトタンも木にうちつけられている。時々雪を踏み抜くと、胸位までおちこんでしまい、足をひき抜こうとすると、雪の下の木の枝にワカンがひっかかって抜けないので2,3人に助けてもらって、ひっぱり出す。小屋の前に出る。右からは白樺湖より桜谷を経る道がある、この所から蓼科山頂が真白に輝き見られる。登りは急になり、あえぎあえぎ登る。途中までは森林の中をゆくので楽であったが、頂上直下50M位が雪の斜面となり、何の手がかりもなく、スリップすると大河原まで下ってしまいそうなので戸君がピッケルでステップを切り、その後からワカンをけりこんで慎重に登った。やっとの思いで登り切ると、広く平坦な　石のゴロゴロとした山頂の一端についた。遂に登ったという感じがした。小屋が一軒ひっそりと立ち、あたりは静まりかえっていた。四方を見まわせば、八ヶ岳全山、南アの北岳、駒ヶ岳、中ア、北ア、霧ヶ峰、車山、浅間山……と　日本の名山がずらりと並んでいた。昨年の秋、登れなかったこの蓼科山に登れて、非常にうれしかった。バターサブレをたべながら、通ってきた黒い樹海の中の北八ヶ岳の峰々をながめていると、よくも通ってきたものだと我ながら驚く。午後2時をすぎたので、雲が出はじめ、眺望が悪くなり出したので、下り始める。やっと登った雪壁を今度は下るのかと思うと、ヒヤヒヤしてくる。しかし下らなければ帰れぬので、一歩一歩バケツをほりながら下っていった。K君はスキーであっさりと下っていってしまった。下の小屋の前についた時、うしろをふり返って今我々が登ってきた山頂をしみじみとながめた。あとは大河原峠のT.Sまで下るだけであるから、のんびりと自然を楽しみながら、雪にうずまりながら、ひっくり返りながら、T.Sまでかけ下っていった。T.Sについたのは、4時近くでそろそろ暗く、寒くなってきたので、夕食の用意をした。大河原ヒュッテには親湯から登って来た高校生2人がいて、小屋の中で火をもしていた。親湯から大河原峠までは大分雪が深く苦戦したようであった。将来この大河原を大資本の手によって、山スキーのメッカにしようという計画が進んでいるらしい。現在すでにバスが入っており昨秋には、今日のような静けさはなかった。夕食がすんだあとで、少し残っていたサントリーレッドを飲んでコンパとし、眠りについた。

4月2日　◎→①

本(6:50) — (8:30) 2000M地点(8:30) — (10:15) 鹿田林業事業所(10:50) — (12:55) 湯沢(13:00) — (13:45) 春日(14:10) ═ (14:35) 望月(14:15) ═ (15:35) 小諸(16:34) ═ (18:46) 高崎(19:00) ═ (20:17) 桐生

峠から小海線の臼田まで下る予定である。合宿最終日なので荷物も軽くなり、パッキングも短時間ですむ。雨が今にも降りそうな天気なので、いそいで下ることにする。峠にある車道を行く。峠から5分も行くと、雪があらわれ、進むにつれて段々深くなってきたのでワカンをつける。K君は他の4人が一歩一歩歩っている間をさっそうとすべって行く。カラ松林の中のなだらかな道なので、スキーには絶好のエースだ。しかしスキーにはよいが歩くにはひどすぎる道である。全然ピッチが上らない。ついにK君すべるのを断念し、スキーでソリをつくってその上にキスリングをつんでひきづってゆく。

静かなカラ松林の中の一筋の道を犬ぞりが走って行く光景は，なかなか見られる風景ではない。やっと雪の少ない所に出ると車がきていて土地の人が5,6人いて何か工事をしていた。里にたどりついたような気がした。「ここまで雪を除いてあるから、歩きよいよ！」といってくれたので感謝して先をいそぐことにする。道はしばらく山すそをまくようにつけられていて，ジグザグのくねくねとした下り道になり，本沢に注ぐ枝沢には，滝が全部凍結していて見事な蒼氷となっていた。トンネルも3個あった。トンネルには鹿曲川隧道と書かれており、白田へ下るコースを間違えて，鹿曲川林道を春日湯へおいているのに気付いた。元に引き返すことも困難なので，予定を変更して春日湯へ出ることにした。この林道は無雪期には国鉄バスが走っていて所々にバスストップがみられる。ソウメンの滝というのもあった。ようやく鹿曲川まで下りきると，周囲の雪も完全にとけ，春の陽がうららかに照らしていた。右手に川を見ながら単調な道を春日湯目指して黙々と歩き続けた。歩けども歩けども仲々着かず，いい加減にいやになってきた。Y君は蝶を見つけてはキャーキャーさわいでいた。はるか先の方に赤いトンガリ屋根の西洋風の建物が見えてきた。目的地かと期待して近づくと，春日牧場の一部であった。後ろをふり返ると，昨日登った蓼科山の北面が黒々とみえていた。段々に人家がでてきて湯沢の部落にたどりつき，バスストップをみつけて，ほっとした。しかしバスは一日に一本で，それが5時ではとてもだめ。これから4Km先の春日まで行かなければ来れないと土地の人に言われ，又歩きだす。大河原峠から20Km近くロードをして来て，いい加減にいやになった所を尚も歩かされてしまった。新田部落をすぎると，人家の集った所が見られ，それを目指して，最後の力をだして歩き続けた。やっと春日の町に入りバスストップにたどりつき全員ガックリしてしまった。道路ばかり実に長い間歩かされてしまった。スキーやストック，ピッケルを持った，ヒゲ面の，人相のよくない5人を土地の人は，不思議そうにじろじろ眺めていた。望月行きのバスが来たのでのりこむ，バスはのどかな田園風景の中を走って望月についた。望月は昔は中仙道の宿場町で，そのおもかげを残した町であり，その名の如く趣きのある町だと感じられた。ここで小諸行きのバスにのりかえ，小海線を横切ると小諸の町並に入り，国鉄小諸駅についた。

〔反　省〕

今合宿の最大の収獲は，GWVで初めて幕営による雪山縦走に成功したことである。このことにより綿密な計画と，周到な準備と，天候に恵れれば，我々にもできるものであるという自信を得た。しかし北八ヶ岳は，ピッケル，アイゼンは必要としない山域で，小屋も利用できるので，雪山入門コースとしては適当であると思う。しかし実力以上のことをしようとしたり，無理をすれば危険であることは，常に心に留めておかねばならない。最終日，大河原峠から白田へ下る予定であったが，春日へ下ってしまったが，この点は深く反省しなければならない。又，雪山に登る場合は無雪期にあらかじめ偵察をしておくことが絶対に必要なことと思われる。

新人合宿

（庚申，皇海山）

4月29日～4月30日

No.1　小島，江黒（CL），松田，中島(恒)，広田，加藤，

No.2　横尾，斎藤(譲)　広田，小堀，

No.3　草場(彰)，横山，斎藤(勝)，新沢，中島(好)，草場(輝)

No.4　藤井，金子，小沢，小林，岡部，

No.5　川田，原（S.L），堀江，埋橋，斎藤(友)，高橋，

4月29日　◎

桐生(8:57) ═══ (10:23)原向(10:30) ── (11:50)銀山平(12:30) ── (15:35)庚申山荘わき 🚶

銀山平は桜がきれいだ。歌謡曲が流れてきて，遠足気分の昼食をとる。原向より，伊女の山岳部と競走したが，途中より我々は尾根道を行く。本年度初の合宿故，皆調子が出ず，登線にでると大粒の汗である。以後，平穏な尾根道である。山荘より六林班峠ぞいにテントをはり，夕食後，自己紹介をする。

4月30日　①

🚶(5:05) ── (5:40)庚仲山(5:45) ── (8:55)鋸山(9:05) ── (10:45)△皇海山頂(10:55)── (13:15)国境平(13:50) ── (17:05)久蔵沢出合(17:15) ── (18:08)間藤(18:52) ═══ (20:40)桐生駅

朝の冷えがきびしい。下界は全て雲海で鉄父連山の彼方に富士山を望む。庚申山への登りはワイド型のキスリングがじゃまになり，以外と苦戦。尾根にでると松木沢，上越方面も一面の雲海で，主な山々が顔を出し，仲々の景色である。皇海山頂にて記念撮影。皇海よりの下りは，雪が豊富なことと，下りの安心感から，事前に注意したにもかかわらず一つ西の沢に降りてしまい，又，隊の前後が分離してしまったのは今回最大の失敗である。国境平にて昼食後，松木沢を下る。うわさの通り長い。自動車道に出てからは，皆やっぱて気味だが，二年生は一番元気。最終便で桐生に帰る。

第5回公開ワンデルンゲ

〔準備段階〕

今年は本年2月前橋にて，教育，医学部と協議の上3学部合同で行うことに決った。そして各部の人数（約350以上）が集められる所として尾瀬沼方面とした。A～Eまでの5コースを，工学部3教，医各1として受け持ち，会員証，　ポスターは各部持ち，バスは一括して申し込み，5月10日より一月間受け付けた。結局会員は117名，教，医学部より198名，OB 3名，部員29名，計350名が参加した。

［総　観］

今回の公ワンは３学部合同であること，３５０名の大人数であること，コース数が５つ等の点から極力連絡上の不手際をなくす為小型トランシーバーに加えて，肩かけ式のもの２台を購入し公ワン用ばかりではない），コース別のリボン、前後の旗，学部別の会員券等の対策を立てた。その甲斐あってか、その面でのトラブルが起らなかったのは幸いである。公ワンの効果について大人数の沼周辺隊よりも，燧，鬼怒沼隊の様に適当な人数の方がはるかに良いことは予期していたし、終ってから更に感じたことである。大人数を引率すれば，端的に言って，もうかるがそれは正に羊と羊飼いの群れであり、それ以外の何の効果もない。公ワンの目的となる部の財源，ワンダーフォーゲルの理解，３学部交流の３つを全て満足させることは不可能であり、又３つをただたんに押しならべることは，返って害ありと筆者は考える。来年公ワン実行決定となった時はこの３つの目的をどう処理するか，よく討議してほしい。

公ワン偵察

５月２７～２８日　　川田，岡部，小林，

５月２８日

大清水（4:45）――物見山（7:40）――（8:10）鬼怒沼（10:30）――（12:00）林道（12:25）――大清水（13:45）

新前橋で夜行列車に乗り込む。尾瀬行きの人で中はいっぱい。窓からやっとはいりこむ。沼田でのラッシュはものすごいものだった。水バショウ最盛期のため多いのだろう。大清水はバスでいっぱい。三平峠行は人でいっぱい。でも僕達のコースは３人のみだった。四郎峠との分岐点まで道幅３５m位の林道がつづく，これから３０分ぐらい沢に沿って進む。途中橋を２ヶ所渡るがかなり古い。物見山の尾根取付点は、はじめはかなりきだがあとは，だらだらとのぼりがつづく。１８００m位の所で燧ヶ岳が頂きのほうがかすかに見えた。前方には県境尾根が見える。頂上付近のシャクナゲはきれいだった，頂上は見はらしはあまりよくない。眼下に鬼怒沼湿原が，そして鬼怒沼山が木の間から見える。湿原まで飛ぶように下る。ところどころ雪が残っている。ここまでは僕達のパーティだけであったが湿原で２，３のパーティに逢った。湿原は小規模ではあるがあまりあらされてなくとてもよかった。帰りは中岐沢への道をさがしたが，なかなか見つからない。地図の通りに下ったらとぎれとぎれに道らしいものが見えたが、台風のため沢がくずれたり，倒木があったりして，とても一般に通れそうもない。僕達は安全を期してゆっくり下った。１６５０m付近からは道はちゃんとついていた。小ぶち沢の出合でたき火をし，大清水に着いたらまた人混み。

鬼怒沼方面　　横山、岡部、小林、川田、

桐生 ═ (2:20) 大清水 (3:20) ── (7:40) 物見山 ── (8:00) 鬼怒沼 (10:00) ── 鬼怒沼山 ── (3:00) 大清水

夜行バスで大清水へ2時半に到着した。3時から各コース出発を始めた。我々鬼怒沼コースは3時20分に出発した。人数はかなり少なく行先も人も余り行かぬ所なので十分楽しめそうな気がした。真暗な夜道を懐中電燈で照らしながら歩いた。しばらくは車でも通れる道だったので暗くてもつまづくような危険はなかった。4時半に空が明るくなり始め次第に黒から緑へと周囲が変り始めた。物見山までは距離的には短かいがかなりの登りである。公開のため女子も3人程いたので皆ゆっくり登った。天気は薄曇りとなり登っている途中見晴らしはさして良くなく、燧岳と日光白根がどんよりとした空に向かってそびえていた。鬼怒沼周辺のしゃくなげは遅咲きなのか、かなり咲いていて目を楽しませてくれた。　物見山に着くと下の方に沼が点々とちらばっていた。空も大分晴れてきたので緑のじゅうたんの上に青い沼が美しく、女性的な雰囲気を感じた。沼周辺に我々の他ほとんど人気はなく十分自然の中に浸ることができたと思う。沼で約2時間ほど休憩して近くに見える鬼怒沼山に行ってみたが視界は全く悪かった。集合時間までには大分時間が余っていたが我々はゆっくり帰り始めることにした。帰りには天気は相当良くない周囲の山がとてもよく見えたが大清水までもう少しという所で夕立に見舞われてあわてふためいて逃げ帰った

尾瀬沼方面

6月18・19日　◎

桐生 (20:39) ═ (2:40) 大清水 (3:30) ── (4:45) 1の瀬休憩所 (5:00) ── (6:20) 東電小屋 (7:00) ── (7:50) 沼尻 (8:53) ── (4:45) 長蔵小屋 (10:25) ── (10:45) 東電小屋 (11:15) ── 大清水 (14:40) ═ (19:00) 桐生.

このコースには前橋からの人も混って150人程度になった。予想よりも全般の人出が少なく、沼への行き帰りは割りあい順調。(道が雨上りでなかった事も一因)が一コースの人数としてはやはり多すぎる。百人をこすとどんなにゆっくりでも落伍者が出るし全体の把握は扱い一本道では不可能である。事実沼を廻って居る時の人数は初めの6～8割程度で残りは途中で逃げてしまった訳である。又一回の休みも20～30分はかかる。結局多人数になると唯連れて行くだけとなってしまう事は明白である。

夏合宿

〔準備段階〕

1月：場所を群馬県出部，日数は昨年よりも定着の割合を増した2週間以内とする。

2月：前橋にて教・医学部ワンゲルと協議し，合宿の定着地は，三学部合同することにする。

3月：合宿定着地を，尾瀬東面，矢ビツ平とする。縦走コースとして，平ケ岳，燧尊，朝日岳，苗沢山方面の中より平ケ岳，朝日岳方面の2隊を作ることとする。

4月：日定決定

8月3日　朝日岳隊出発

8月4日　平ケ岳隊〃

10日まで縦走，予備日を2日入れて定着期間を13～15日とする。

5月：ボッカ訓練を25Kgより開始

スライド映写会

7月：14日～20日まで，和石岳，高畑山，と入の3隊で偵察を行う。

21日，定着中の食料で保存可能のものを5日遅便で，会津田島へ送る。（2週間）

朝日岳隊の日定を偵察の結果変更。

8月：2，3日，食料及び共同装備の分担。

月日　8月4日～15日

地域　只見川両岸の山系，尾瀬東面

目的　上越北東部の踏査と三学部の合同で行う尾瀬東部（矢ビツ平）の調査を行い，かつ，自然の中の生活から，技術，チームワークの向上，人間性への努力を学びとる。

メンバー

朝日岳隊

チーフリーダー	原(3)
サブリーダー	小沢(3)（記録
食　料	渡橋(2)　中島(好)(2)
医　療	小堀(2)
トランシーバー	松田(2)
写　真	草場(4)(天気)　小島(4)
器　具	斎藤(勝)(2)　南雲(2)
会　計	畑江(2)

平ケ岳隊

チーフリーダー	横山(3)（写真）
サブリーダー	斎藤(徳)(3)（天気）
食　料	上山(2)　小林(2)
医療・会計	新沢(2)
トランシーバー	須藤(2)
写　真	横尾(4)
器　具	川田(4)　中藤(哲)(2)
記　録	岡部(2)

定着隊

チーフリーダー	江黒(3)（記録）
サブリーダー	五十嵐(4)
会　計	金子

夏合宿偵察　（平ケ岳隊）

7月16日～7月19日　　江黒、横山、山田、

7月16日　Ⓒ

新前橋（8:23）═══（10:00）沼田（10:10）═══（12:10）富士見下（12:30）═══（15:00）富士見峠（15:10）═══（16:50）見晴十字路⛺

バスはだいぶすいていた。途中バスがぬかるみに突込み、苦戦する。昼飯をたべ、富士見下より歩き出す。背に赤城が見える。日ざしが強い。富士見峠の前で山田、足にケイレンを起すがじきになおる。

峠より快調にとばすが能率の悪い坂で意外と時間をくう。途中、地図も持たずに「尾瀬沼はどこですか。教えて下さい」と大ごえでわめいている女性数名にあう。まるでばかげている。沢に出合い、見晴も近い。見晴にテントを張り、7時に寝るがあたりが湿んでいてうるさく眠れない。山にきてまで騒がなくてもよかろうに。

7月17日　◎→⛺→◎

⛺（6:30）═══（8:00）景鶴山頂（9:20）═══（12:30）ヨサク山頂═══（16:30）見晴十字路⛺

朝6時半出発、乗鞍小屋をすぎ景鶴への道に入る。あまり人が通らないようだ。江黒、腰痛をおこしペースを遅くする。きょう中に幻の大池に行けないと判断し、大池まで行くことは断念する。途中に荷を置いてヨサクまでピストンにする。景鶴山頂で昼めし。尾瀬ケ原を一望のもとに見おろす。元へ少し戻り、ヨサクへのルート開拓をはじめる。ブッシュの連続で歩きらく体力を要する。ヨサクの頂上が平でブッシュになっている為、三角点を捜すのに苦労した。大池への方向を捜し、目じるしをつけて戻る。片道0.7Km位を2時間かかる。荷のところへ戻ると同時に夕立がはげしく降り出し、雨の中

をまた見晴まで戻る。山小屋へ泊り、衣類を乾し、楽しい話をさかせる。

7月18日　◎

台（7:00）── （9:30）長蔵分岐 ── （10:00）沼山峠（10:10）── （12:30）⛺

空は晴れてくる。沼尻へ出てしばらく休む。沼は美しくヒウチがきびしく空に広がる。尾瀬沼を回り沼山峠へ。長蔵分岐あたりに日光キスゲが咲きはじめている。峠を下る。すごい坂だ。帰りの登りを思うと疲れないやに感じてくる。人にはあまり会わない。尾瀬のうらは人がそれほど訪れないようだ

上人の手前にテントを張り，上人山荘に連絡，通信などのことを頼む。定着地に好適なところを求めて偵察。わずかの間にへび8匹に出あう。人がほとんど通らない山道であるからしい。夜，虫がテントに入ってかゆくて眠れない。裸で寝たためかあとで数えたら78ヶ所くわれていた。

7月19日　①

⛺（6:10）── （8:10）沼山峠（8:30）── （12:05）大清水（12:30）═ （14:20）沼田

幻の大池へ行くことができなかったが無事任務を果しほっとする。偵察の重要さをあらためて知る。

登りが苦しいが自然，足が軽くなる。途中，袍返の滝が見える。予想よりも早く，2時間で沼山峠へ登りきる。会津駒，日光白根が見え，峠から，尾瀬沼は人が見えずスイスのような牧歌的な感じがしてくる。長蔵で一休みし大清水へ出る。尾瀬沼から沼田までは美人の後をついてゆく。疲れた時は効果的である。

夏合宿の偵察　（朝日丸山）

7月15日 ～ 7月20日

7月15日　①

桐生（6:41）── （7:49）栃木（8:28）┅┅（9:10）下今市（9:40）┅┅（9:30）鬼怒川温♨（9:55）── （12:30）会津田島（12:40）── （15:17）小豆温泉着♨

最初の乗り換え駅栃木で高W.Vの O.B大塚さんに会って話しをした。鬼怒川からバスを乗りついで午後3時過ぎに今日の目的地小豆温泉に着いた。一昨年先輩が下山したという三岩山登山口はバス停から山口方向へ2分程行ったところにあり、地元の青年団で作った道標がある。登り口のところはかなり急な上りである。小豆温泉の小屋はトタンぶきガラス張りで半分畳がしいてある。ここは今開発中とかで湯の温度30°くらいで入浴は不可能だった。便所あり。

7月16日

T.S（5:30）── （5:40）三岩登山口 ──（11:00）小池湿及び流れのある田代（11:30）── （11:50）三岩山 ── （14:00）田代に戻る⛺

三岩の登りは広葉樹林帯を進む。かなりきびしかったが，これはザックの重さと山とに体が慣れていないためだけではないだろう，大した下りもなく上りだけで750mから2065mまで初日に登るのは大変つらい。道標によると登山口ー三岩間は6.2KM上り4hr，下り2hrとのこと。ここの道は　まだで

きて間もないので竹や木の切り口がとがっており、転ぶと危険だ。11:00に2つの小池塘と細い流れのある田代に着いた。この田代の上の陣竹を切り開いた道を行くとすぐに次の田代があり、ここからまた10分程行くとぽっかり三岩の横に出る。とりあえずザックを下し、幕営の場所と三角点とを捜して歩いた。三っ岩の少し上に小池塘があり。田代も2っ3っあった。三角点で窓明山の方角を確かめようとしたがガスが切れないので下り始めると雨がパラツキ始めた。明日の予定を考慮して2っめに出た池塘まで戻ってテントを張った。14:30ごろからひどい夕立となった。溝の掘り方が不充分だったためテント内に浸水してきた。かろうじてザックやシュラフをぬらさずに守った。15:00過ぎになって雨は止んだ。夕方窓明山は見えたがそれに続く三岩からの尾根及び鞍部は見えなかった。19:00就寝。

7月17日　○―◎―◒

T.S（6:45）～～（7:15）尾根の踏み跡（7:25）―（8:05）最低鞍部池塘（8:25）～～（10:55）窓明田代～～（11:04）窓明山頂△（12:10）～～オ2ピークの手前（13:25）～～（15:30）窓明―坪入最低鞍部△

田代を少し下って左廻りに鞍部へ向った。ヤブは湿上付近よりずっと楽にこげる。尾根へ出ると踏跡が少しありナタメも所々にある。鞍部には中小2コの池塘があり田代にはイワカガミ、マルバノモーセンゴケ、ワタスゲ等がある。この鞍部までは西側が森林帯、東側は陣竹で踏跡はその分かれ目についている。鞍部からはシャクナゲなどの藪をさけて左よりにコースをとったが陣竹がものすごかった。踏跡は東側についているものと思われる。次の鞍部迄すぎると、小灌木のヤブで踏み跡があり割り合い楽にこげる。窓明田代は三角点の少し下にあり池塘が一コある。ここにはテントを張った跡が2っあった。田代から三角点までは少しやくなげのヤブにかっている。三角点付近の見晴しはよくない。ここを下って次のピークの手前でにわか雨に会い30分程ポンチョをかぶっていた。このオニピークを越して行くと尾根はだんだん広くなり、踏み跡、ナタメもなくなる。ここの下りは見通しも悪く、傾斜も急なため谷へ下っているのではないかと思われ、度々、止まって方向を確かめねばならなかった。今日坪入を越す予定だったが、坪入窓明間の最低鞍部へ着いたのが15時30分だったので、ここの森林の中にテントを張った。鞍部から東側に4～5分下ると水が流れている。夕方雷雨があり、いんげん豆大のひょうが少し降った。

7月18日

T.S（6:45）～～（6:58）坪入田代の下の田代（7:10）～～（7:41）坪入田代（8:30）～～（10:00）坪入山頂△（10:30）～～（11:30）高巻側のピークの田代（12:00）～～（13:00）坪入山頂△～～（13:45）幕営地点

鞍部から西よりにコースをとった。東側は陣竹でかなり急に落ちていてとても腕が疲れる。13分程でぽっかり田代に出た。ここには0.6×0.8㎡ぐらいのごく小さい池塘があり、オタマジャクシが泳いでいる。田代のまわりは小灌木であり、田代にはモーセンゴケがある。ここから森林帯を約30分ヤブコギして東側へぐるりとまわると、坪入田代のちょうど最下部に出た。坪入田代は草原で稜線に沿って150m程続いている。ここには3×2.5㎡の池塘があるが、水はグリーンににごっている。田代から三角点までは陣竹と灌木が混在しているヤブである。

雷雲がかなり発達してきていたので、ここから1時間だけ高幽方面へ行って来てから下ろうと言うことになり空身で高幽の方へ向かった。三角点付近の陣竹をこすと後はほとんど小灌木ばかりである。坪入の下りはかなり左へ向かっており、うっかりして真直ぐに下ると谷へ落ちこむ急な斜面へ出てしまう。左ぎみに下りナタ目からはずれないように気を付ける必要がある。鞍部には踏み踏がある。鞍部から向うの上りは灌木がかなりひどく苦戦する。ピークの上はかなり広く。灌木の中を進んで行くと中ほどに小さな田代があり小池塘が2つ並んでいる。ここから折り返し13時に坪入山頂にもどった。

三岩の辺りでは雷鳴がしきりにしている。大急ぎで下りかけたが1時間も下らないうちに大粒が降り出した。森林の中だったので、できるだけ尾根から下ったところで雨をヤメた。幸い雷雨は直接私たちの尾根にはこなかった。16時ごろ雨が上がったので、体がぬれないように近くにテントを張った20時ごろまで雷鳴が付近でしていた。

7月19日　○

T.S（6:22）~~WW~~（9:00）坪入 — 稲子最低鞍部（9:05）— （9:45）西沢（10:30）— （12:20）林道終点（13:10）— （14:40）小立岩（15:00）— （15:20）小豆温泉

坪入山と稲子の最低鞍部の次のピークから西沢へ下ることにして稲子へ向かって進む。上部は陣竹と木が半々ぐらいのヤラだが、少し下るとすごい木ヤラとなった。先の方が全く見えないので地図を頼りに下った。尾根はかなり急で広い。鞍部から間違って予定より手前の小さな沢を下ってしまった

この沢には危険箇所がなく一度2m程度まいただけだった。そして幸いなことに西沢との出合い付近ではほとんど平らであった。東沢との出合にある林道まで沢を下った。林道からは一時間半でバス停に着く。小立岩からはバスで小豆温泉まで行って泊った。

7月20日　①

T.S（7:35）（¥140）（8:23）上入（8:30）— （10:55）沼山峠（11:15）— （11:45）長蔵小屋（12:00）—（12:18）東電小屋（12:30）—（12:45）三平峠（13:05）—（14:20）大清水（15:00）＝（17:20）沼田（17:24）～～（18:00）前橋

小屋温泉からは一番のバスに乗った。上入で下車して、まっすぐに沼山峠へ向かった。非常に暑い。帰りだというので少しピッチを上げすぎて結局は峠まで2時間45分もかかってしまった。長蔵から後はいつものコースをとって大清水へ出た。

平ヶ岳隊

8月3日　①

桐生（7:16）═══ 新前橋（8:09～8:28）═══ 水上（9:55～11:30）═══ 須田貝ダム（12:50～1:00）──→ 洞元湖（1:20～1:35）──→（2:15）═══ 天木沢ダム（2:30）──→ 幕営地（4:30）

我々一行が洞元湖へ着いた時、真に天木沢ダム完成の日であった。ダムの上まで工事人夫運搬用のバスが気持よく運んでくれた。ここからいよいよ夏合宿の第一歩であると思ったら心のひきしまる思いがした。日はまだ高く我々は利根川最上流の側を通っているはかどらない蛇の様に曲がっている道を進んだ。4時30分幕営に適した道幅の広く小さな沢のある場所を見つけてテントを設置した。就寝（7:30）

8月4日　①

起床（3:00）出発（5:00）── 東千ヶ倉沢（6:45）── 臨時コース ── 割沢（手前の沢）（9:50～10:00）── 割沢（1:10～1:30）── 赤倉沢（1:55）⛺

（3:00）に起床。まだ真暗であったが星が沢山見えて今日の天気を約束してくれた。

食事係が皆がテントをたたんでいるうち朝食の準備をしていた。皆協力してやっているので今回の合宿は気持良くゆきそうに思えた。（5:00）に出発。前が全くまだ暗いなと山の間を歩き始めた。

天木沢ダムの建設で水位は高く、旧道は水没していた。（6:40）東千ヶ倉沢に着き、ここまでで車の通れる道は消えていた。10分ほど捜して平ヶ岳への臨時コースを発見し割沢へ向かった。道はつくられたばかりで相当な斜面にあるため木をつかまなければ歩けないほどで全くはかどらなかった。

（1:55）赤倉沢へ到着。ここより先は今日の幕営地は見つからないと途中で会った人の助言により一応皆を休ませた。一キロ程先に幕営のできそうな場所が見えたので偵察に向かったが、がっかりして帰る。道は狭く、キスリングが振られると危険なため、また臨時コースがきつかったのでバテ気味の者もいたので赤倉沢で幕営した。　就寝（6:00）

8月5日　①→●

起床（4:30）出発（6:20）── シッケイガマワシとの出合（7:55）── 滝（11:10）──小屋（12:20）⛺

出発してから約1時間半ほどでシッケイガマワシ沢との出合についたが渡渉不可能なためひき返して、道を捜すのに少々手間どった。道は沢の反対側に変るため、粗末なつり橋が見つかったが全員が渡るには時間がかかるため、石をとんで渡った。12時20分、小屋に到着、小屋は2軒あり1軒は完全に倒れており、もう1軒はだいぶ汚なかったが夜露をしのぐには上等であった。

8月6日　●→①

起床（3:00）　出発（6:00）── 小屋（6:15）── 沢（7:35）── 休息（8:15～8:40）── 水長

沢横断地点（10:30）── 尾根とりつき（12:30）── 田代の下（2:30）ひきかえし 小屋（6:00）

雨がかなり降っていたので出発をもめていたが、食料係が熱があるというので全員の出発はできなかった。このコースは偵察しなかったため甘く見すぎていた。予定では既に平ケ岳に到着しているはずだがと思うと焦るわけにゆかず、結局夕食、明日の朝食の食料を残し他の荷は可能な限りの場所まで運んでおくことにした。病人と看護の者3人を小屋に残して6時に出発した。我々は名目ばかりの道を進んで行ったが、水長沢を横切る所で道は完全に終った。水長沢を 500 m程つめて右上方にある尾根目ざして ヤブをコギ始めた。相当な傾斜のため胸が大分疲れた。田代の下までようやくたどりついた時既に2時半であった。暗くなってから歩くのは危険なため荷をビニールフライで包み小屋へ引き返した。

8月7日 ①

起床（4:30） 出発（6:30）── 水長沢横断地点（9:10）── 荷を置いた地点（11:25）

出発（1:25）── 平ケ岳テントサイド （4:45）

寒を出した部員も回復し、天気も良かったので運んだをとりもどそうと皆元気いっぱいであった。

昨日は偵察に時間を大分とられたが、今日は荷を置いた地点まで約2時間早く着いた。その上の田代はまるで人間が我々が初めて踏みしめた様な全く自然そのままであった。そこから我々が歩いて来たところがはるか下のところでかすんでいた。食事やパッキングをして、平ケ岳の頂上目指して進んだがあっけなくついてしまった。頂上はたいして広のない広く、頂上全体がやや乾燥した田代になっており 視界はこれまた一大パノラマであった。

テントを張り終え食事の仕度をしている時、にわかに人の声がしたので全員キョロキョロしていると案の定、学芸のパーティーがやってきた。 4時に通信係が朝日岳隊の送信をキャッチし、ようやく朝日岳隊と連絡がとれ、双方とも大分予定どうりに進んでいないことがわかった。 ともあれ、全員無事に平ケ岳の頂上に着いたことを喜びあった。

8月8日 ①

起床（4:10） 出発（6:40）── 白砂山（7:55）── 大白沢山手前のピーク（10:05）

大白沢ノ池（1:00）── 赤モウセンゴケ群生（1:10）── 東白沢ノ池（2:30）

天気は上々、朝日に周囲の山々が映えて全く素晴らしい眺めであった。

学芸のパーティーに見送られて我々は先に出発した。平ケ岳を一気に下り、大白沢の手前のピークから大白沢目指して太い陣竹のヤブをコギ始めた。2時間ほどで池に到着し再び東白沢の池へ向かった。今度のヤブは大白沢池までのヤブと異なり、陣竹ばかりでなく、樹木と細い竹の混ざったヤブではるかにコギやすかったが、それでも磁石は2～3分ごとに見なければならなかった。 途中でバッタリ出合った赤モウセンゴケで あたり一面真赤であった。大白沢の池にも少々住んでいたが東白沢の池は 誠にイモリの天国であった。その他日本で一番少さいと云われるコバルト色をした体長3cmほどの美しいトンボも見られて皆で珍らしがった。南には明日通る景鶴山が美容な山容をもたげていた。

8月9日　①

起床（4:15）　出発（6:50）～～～景鶴（11:10）　出発（11:55）～～～　与作（1:55）～～～～
メグミの田代（2:15）⛹

平ヶ岳からは予定どうりに事が運んでいるので大分安心感が腰をすえてきた。今日先ず景鶴に連なる尾根に出て，多分あろうはずのメグミの田代が　うまく見つかれば良いな　などと思いながら朝露にぬれたヤブをコギ始めた。ここのヤブは笹が密生してはいるが細いヤツなので余り疲れない。
約3時間ほどで景鶴の下まで来た。ここから　じきに道が途中まであるはずなので　ナタ目を捜してようやく消えそうな道を見つけた。かなりの傾斜である。木につかまらなければ登れないほどである
11時10分に頂上に着いた。北の方角に我々の通ってきた平ヶ岳，大白沢，東白沢の池などが　まぶしい程良く見えて今日の天気に感謝した。与作への登りのヤブコギはかなりバテ気味の者が出た。
メグミの田代が見つからないと本日の幕営場所はとんだ場所になりそうだと思ったが，与作を過ぎてから 30分程経過したときヒョッコリとメグミの田代らしい場所に出てしまった。水場は細くて，小さいが　すぐ下にチョロチョロと流れていた。

8月10日　①

起床（3:30）　出発（6:05）～～～1828mのピーク（9:10）　出発（9:40）～～～池が見えた（10:45）～～～1703mのピーク（11:45）～～～　新道に出る（12:25）── 幻の大池（12:50）　出発（1:45）── 水場（2:50）── 只見川渡渉（3:35）── 小沢平（3:45）⛹

尾根の笹は露をたっぷりつけているので朝のヤブコギは夕立に見舞われた位ビッショリになった，
2時間程コギ続けたので休憩したいのだが，余りぬれているので火でもたかなければ　とても止まる気になれなかった。 1828メートルのピークに着いたときは日もかなり高くなり服も大分乾いたので乾パンを食べた。ここまでのヤブは笹と枝のよく出た低い木が混じっているためコギにくいこと極上であった，ずぶ濡れだったから余計コギにくく感じたのかも知れない。
10時45分，左下に鉛色の池が見えた。突然大声で "池が見えたぞ" とどなってしまった。ようやく第2の目的地が見えたのである。
12時25分　幻の大池へ行く新道に出た。ヤブコギは終ったのである。皆よろこんだ，苦しかっただけに喜びも一層大きい。皆バテ気味の顔に笑顔が笑いで　いっぱいだった。
荷物を置いて幻の大池にピストンした。池は浅く底は落葉が腐って水もきれいではない。やはりこの池は尾根の上から見るものだろうか。 "幻の大池" この名も道が出来た今，この池には　ふさわしくない名前に思えた。　只見川に通ずるこの新道は下りのため，それもかなり急なため全員膝が笑い出してしまった様である．只見川の渡渉は浅瀬を選んで，ひっくり返らぬ様に杖をついて渡った。
小沢平へ着いたのは3時45分であった。

8月11日　●†→①

起床（5:00）　出発（7:25）── 御池（9:35）　出発（10:20）── 七入（11:15）⛹

久しぶりにゆっくり寝たので全員元気に起きた。本日の予定は　最後の目的地である定着活動のベースキャンプ上入である。天気はよくないが　もう平地と同じなのでさしつかえなかった。
小雨の降る中を御池に向かって登った。御池の近くまで行くと朝日隊の4年生が出迎えてくれた。
久しぶりに見た仲間の顔はなんとも言えなくうれしかった。
予定は多少ずれたがこうして全員元気に定着地へ着いたのでヤラコギしている時に感じた一切の不安感は飛び去り、ただ予定のコースを踏破したことを考えると胸がいっぱいになった。
4～5年前、雑誌の中に「幸福とは山を降りるときである」と書いておったのを思い出し　新たな感激が心にあふれた。共に平ヶ岳コースを10日近くもの日を同じテントで過した仲間達、このメンバーを私は忘れないだろう。　計画を実行し、それを果した時に感ずる満足感ほど心を満たしてくれるものはないと思う。　ヤラをコイでいるときは苦しく、つらかったが　こういう思い出程回想する価値のある思い出だと思う。

朝日丸山隊

8月3日　㊐

桐生(6:40)── 鬼怒沖駅発(7:59)── 会津田島 ──(15:10)小立岩(15:35)──(16:40)小沢沢出合本いよいよ合宿も始まり、正則駅で全員揃い一路小立岩へ向って進む。鬼怒川温泉からも所狭しとバスにゆられ全員バテ気味であった。小立岩バス停で降り遅い昼食をとる。小立岩より安越又沢への林道林を進む。ちょうど1ヶ月ぶりの山歩き位の嬉しいものである。キスが重い為にピッチが進まず　1時間程で小沢沢に出合った。まだ早いがここを今日のTSとした。道の右上には草に覆われた飯場の跡があり、整地されぼ[illegible]かもしれない。

8月4日　㊊

本(5:25)──(6:[illegible])原流[illegible]沢出合──(6:55)林道終点(6:45)──(8:30)窓明よりの沢と西沢の二俣──(10:30)坪入山直下の沢と[illegible]からの沢の二俣(10:45)──(11:40)最低鞍部からの沢と窓明よりの沢の二俣(11:50)──(12:00)[illegible]の滝(12:15)──(14:10)稜線上(14:30)～～～(15:25)最低鞍部　本3時起床、[illegible]出発の予定[illegible]朝食の用意[illegible]出発する。天気は快晴とは言えないが上々の天気である。安越又沢林道を1時間位い歩くと東沢と西沢の出合に着く。伐採の終った山肌が真夏の太陽に輝いてまぶしい。ここで林道が終り、飯場の家が荒れ果てているのが静けさを誘う。ここから西沢を進む、始めは足を濡らさぬよう慎重に石の上を歩いていたが、皆あきらめて水の中をバシャバシャ歩く、水量は多いがあまり冷たくなく気持がよい。荷物が重いのか数人が水の中に腰を降したりコロンダリしてペースを乱した。この安越又沢は明るい感じのする沢で両岸は陣竹やコメツガなどが生え　うっそうとしている。坪入山直下からの沢の出合付近は明るく開けてい

て鞍部が見える。ここから明るい日当りの良い鞍部からの沢をつめることにした。途中四つの滝があり、いずれも3～5m位いで直登できる。一人誤って滝つぼに落ちたがケガをせず、ほっとしたところだった。明るい簡単な沢を鞍部より窓明よりに突き上げた。突き上げた稜線は田代でT.Sに向く、かなり明瞭な踏跡がありここから鞍部に向ってシャクナゲやコメツガの中をヤブコギして進んだ。

8月5日　●₋→●

沈殿。ガスが濃くすぐ近くも見えない程である。雨足しは強いという程のものではなかったが、これから先がヤブコギのためと、ガスが深いと尾根を間違う危険性がある為沈殿とした。水は安越又沢よりの田代の下に汲みに行った。

8月6日　●→●₋→①

⛺(8:00)～～(8:40)坪入田代(9:00)～～(9:25)坪入山頂(10:00)～～(11:00)坪入山北側の田代(12:10)～～(13:15)坪入山頂(13:30)～～(14:18)坪入田代(15:00)～～(15:35)⛺

昨日からの雨がまだ降りつづいている。憎々しい無情の雨である。食事をすませたがまだ降っているのが気がかりだった。出発すべきか今日も沈殿すべきか迷ってしまった。三・四年生の合議の結果沈殿することに決定した。しかし沈殿でテントの中に居ると非常に腰が疲れるのでたまらず坪入山北側の田代を調査することとし全員で出かけることにした。又明日からの行動は今日二日間も予備日を使った為これからの日程からだと丸山・朝日方面は予備日無しと食料が買い出しのないためにギリギリなので無理と判断し一昨年の夏合宿のコースを行くことに決定した。T.Sを出てコメツガと陣竹の中をヤブコギして進んだ。雨も上がって霧もだんだんと切れ始めた。ビッショリとなって坪入田代に出る。この田代はT.Sに向き、水場は安越又沢に5分下ると得られる。この頃より安越又沢側ではガスも上って見はらしがきくようになってきたが逆の御神楽沢側はまだガス巻いている。頭上は薄日の日光が見える。稜線東側は陣竹が線のビロードのようで背の高くないカン木があり西側はコメツガと陣竹のブッシュであった。雨上がりのヤブコギは上下ともずぶ濡れとなる。坪入山頂に立つと霧も上がって晴れとなった。遠く眼前に丸山岳が見えその尾根がずっと続いているのがわかる。残念であった。頂上より北側に向ってヤブコギして未踏というべき田代に出た。ここに三つの田代がありいずれも縦横40～60m位いで池塘は一ケもなく、唯池塘の後だけがあった。ワタスゲ、モウセンゴケなどが生殖していた。

8月7日　①

⛺(6:20)――(7:45)窓明の肩(8:10)――(9:05)窓明山頂△(9:15)――(9:20)窓明田代(11:30)――(11:40)窓明・三岩　最低鞍部⛺

今日は朝から天気が良い、新しい気持で三日間も居たT.Sとも別れヤブコギを敢行した。二日間沈殿したせいか全員疲れも感じない程である。窓明の肩に向っては安越又沢ぞいの稜線を進むと、かなりの踏跡があって苦労せず大分たすかった。又大木の下を見当して行くとあまりヤブコギをしなくてもよい。窓明肩の近辺からガスのかかっている三ッ岩が見えた。この付近からシャクナゲや背の低いコ

メツガや枯木のカン木などにキスリングがかかって歩き難い。はっきりと踏跡がはっきりしているので方向を間違うことはない。窓明の肩は開けているがシャクナゲとコメツガあり木の上に登らないと景色を見ることができない。この肩から丸山岳の後に朝日岳が見える。この肩から窓明山頂にかけては左側のガレ場を進むとひざまでの笹で歩き易い。窓明山頂はコメツガがあり見通しがきかず，ここから5分下った所に窓明田代がある。一昨年よりも池塘が小さくなっていた。本日の予定はここまでであったが時間がまだ早い為，最低鞍部の池塘のところをT.Sとする。ここには十分すぎる程の大きな池塘が二つありT.Sに非常によく適している。本日初めて平ヶ岳隊とトランシーバーで通信することができ，皆元気であることを聞いて安心した。

8月8日　○

⛺（5:15）—（6:55）湿原（7:05）—（7:20）三ッ岩岳△（7:40）—（8:20）湿原（8:35）—（9:35）お花畑（10:00）—（10:40）駒三ッ岩最低鞍部（10:55）—（12:30）駒ヶ岳肩—（13:10）駒ヶ岳肩の湿原（14:00）—（15:20）駒ヶ岳△（16:00）—（16:05）中門上の尾根⛺

朝露で下半身ビッショリ，三ッ岩の登りは偵察の時より，はるかに踏跡が明瞭になっていて登り易くなった感じである。三ッ岩の下でずっと左へコメツガの中をトラバースして小豆温泉からの登山道に出た。三ッ岩肩まではこの登山道が整備されて気持よくピッチが上がった。途中二三ヶ所池塘があり T.Sに向く，三ッ岩肩は360°のパノラマでよく見える，これからの駒ヶ岳への稜線や燧ヶ岳，越後三山などすばらしい。そして日本海の青さがちらりと見えた。三ッ岩肩より三角点のピークの手前に大湿原があり池塘もあってT.Sには最適であろう。三角点を越すと又湿原に出る。左手側をガレ場にするとヤブコギせず楽である。三ッ岩最後のピークの南面はお花畑で　キンポウゲ，イワイチョウ，ウメバチワウなどが満開であり疲れをいやしてくれた。駒三ッ岩鞍部に田代があり池塘も小さいのがあり，駒に向ってコメツガの疎林の中を行く。駒の稜線は南面に田代がいたる所に散在しているが，稜線が広くシャクナゲ，コメツガがありキスリングが引張られてコギにくい。途中この稜線上にはT.Sに最適な田代が数ヶ所ある。最後の苦しいヤブコギを終えると駒の頂上であった。今日のT.Sは中門より稜線上にした。夕日に映えた尾瀬の山並が美しい

8月9日　①

⛺（6:40）—（7:15）中門岳（7:20）—（7:40）T.S（7:45）—（8:00）駒の小屋合（9:00）—（10:10）大津峠峠（10:20）—（11:25）送電線下（12:00）—（12:50）大杉岳△（13:00）—（13:30）水場（13:35）—（13:50）御池小屋合⛺

朝のすがすがしい大気の中を中門までピストンを行なう。中門岳までは草原がずっと続き途中池塘が何ヶ所もあってよい場所である。中門よりはワタスゲ，ヒメシャクナゲ，モウセンゴケその他名の知らぬ植物群もあった。駒の大池の水は茶色となっていて飲料水に不適であったため沢を5分下った。この付近は咲き遅れたチングルマが色あせていた。駒ヶ岳より大杉岳まではなめらかな稜線上を行く。この稜線上にもいたるところ田代があった。下りでもあり登山道であるのでピッチが上がった。途中

[illegible] 大杉谷ルートから大々の間に向に見る裏燧ケ岳の景色はまた格別である。大杉谷の下りを一息に下って御池に着いた。昔の御池小屋は今は自衛隊の宿舎と化していた。理由は沼田会津田島間の産業道路の開発の為に工事している際中とのことだった。現在は重兵衛池を過ぎて；長池の付近を貫通しているそうだ。こんなことで明日の重兵衛池や長池は楽湯を思わせる。尾瀬に来て初めてざわめきを感じて女性ハイカーと出合った。

8月10日　①

⛷(7:00)―(7:30)1572.7m峠(7:40)――(8:45)長池(9:20)――(10:25)重兵衛池(11:00)―(11:20)御池(11:40)――(13:20)七入(13:30)――(14:00)大矢沢出合(15:00)――(17:00)T.S ⛷

キスリングを自下御池小屋の代りに新しく鉄筋コンクリート建てしてる工事場のおやじさんに頼んでもらって置いてもらった。道幅の広いジャリ道を進む、途中工事関係の自衛隊の車が行ったり来たりしてうるさい。このような立派な道がないならば今頃はもう烈なヤブコギと想像する。樹令何百年のブナ林がうっそうと茂っている。がケをくずした赤茶色の山肌が印象的だった。御池より30分で道の真下に重兵衛池が青々として無気味に輝いていた。長池までは道路ができていて簡単に行くことができたが、この先は現在工事中で時々ハッパの音が山谷に響いてくる。長池は余り広くはないが、キボシなどの高山植物が色取々に咲いていた。重兵衛池は道から下り1分程である。大分人が来たと見えて道が立派にできており、シャモジ小屋だけが昔のおも影を忍ぶだけだった。かっての秘境ももうすぐには観光地の一部となり大衆の目の前に現われることだろう。経済発展のためには自然の破壊もやむを得ないものであろうか。再び御池にもどって炎天下のもとをブナ平をすぎ、七入のT.Sに向った。偵察隊よりも一日早く着いたためTSが何々大はらず教育ATTの連中と一緒にT.Sをさがし、七入小屋の上流200m位の川原をT.Sとした。

8月11日　●―→◎

合宿の疲れを癒やすかのように雨となった今日は休養とし池のパーテーのT.Sを整地したりして来るのを待っていた。午後は自由時間として　ある者たちは取り、又　蛇滝見物などと　思い思いの事をして過ごす。医学部のパーテーが来たが、尾瀬研究会のパーテーが来ないでさがす。宗の上　さらに上流の天幕平にT.Sをかまえて　夕食をしていた。明日こちらへ来るとのことで　これで全員集合した訳である。

8月12日　◎―●

午前中に全員そろった。原、中島（裕）は会津田島まで定着用の食料を受け取りに行った。

定 着 隊

8月11日　◎(●)

大清水(4:30)── (7:20)長蔵小屋(8:20) ── (14:00)矢ビツ平 ⛹

はっきりしない天気だ。長蔵小屋で休んでいると、教育学部の金澤峠隊に出合う。わきのテント指定地にはっていたとの事。以後今をさしたまま出発。沼山峠からの道は天気の影響もあって、陰気でつまらない。ここは秋来るところであろう。矢ビツ平には左岸の道を行くのが便利で、面倒でも沢に出合ってから少し下っての後、横断した方が良い。砂防ダム上手の砂洲に幕営したが、夜雨となり、あまり良い気持ではない。危険である。矢ビツ平は草木が深く、テントをはる場所としては、適さない。

中心部、送電線の下に東電の無人小屋があり、清水が流れている。

8月12日　①→◎→◓

⛹ (7:00)── (8:00) ⛹

縦走中の医、工、教、の4隊はすでに9日中に七人小屋の上手に幕営していた。連絡の不徹底さに反省。テントを移して一日休む。各自、散歩に行ったり、桧枝岐に出かけたり、釣、スケッチ等の1日である。4時頃より雷雨となり、平ヶ岳隊の2テントを残して、浸水となり、大騒ぎとなる。平ヶ岳隊の連中はテントの中より見物し、Kは記念にと写真撮影、その後、河原で火を囲む。朝日隊はまだ非常食が残っているが、平ヶ岳隊はこの日に全て食いつくし、あとは毎回の食事のみとなる。

昼前OBの鳥居さんが到着する。

定 着 中 の 行 動

8月13日　◎ときどき●

故障の者を残して、七方面へ分散して、各自出発。その人員を下に示す。はなはだしく遅れた花沼隊を除いて各隊とも14時までに帰る。

場　所	リーダー	氏　　名
長須ヶ玉山	宇多川(教)	五十嵐　堀江
クビレ田代	大野　(教)	金子　須藤　斎藤(勝)
大丈　田代	菅野　(医)	斎藤(譲)　埋橋　上山
裏燧　湿原	元山　(医)	伊藤
無名　田代	横山	小掘、　新沢

花沼　湿原	原	小林　　鳥居（OB）
赤　田代	小沢	草場(彰)　松田、中島(好)
会津　駒	草場(輝)　(教)	医、教のみ

定着中の赤田代調査

（8月13日）　（工学部：○小沢、草場、中島、松田）　（教育学部：大沼、五十嵐）

8月13日　◎

本（七入）（6:25）— 実川・黒溶沢分岐（7:55）— 実川・赤安沢分岐（8:05）— 赤安沢・赤田代より流れ出る無名の沢との分岐点（8:23）— 赤田代（11:18）— 赤安平（11:48）— 送電線に沿っておりる — 矢櫓平 — 七入（15:22）

赤田代にいたる沢は、普通の沢よりは割合にこけが少なくすべりにくいのであまり神経を使わずに登ることができ、田代に近ずくに従い田代から　わき出てくるような水に変化するのが明確にわかるので割合に見つけやすかった。しかも湿原が大きいので見つけ出す確率が大 であることが心の不安をとりのぞいてくれた。送電線に沿っての道は　幅が30cm位で歩くのには登山道と変りはないが、かなりの急坂があり、矢櫓平付近は、へびが非常に多く、我々はその付近だけで7匹のへびに会った。矢櫓平に出るためには、送電線沿いの道から少し下りねばならない。小屋の番人の話しによると昭和38年頃から赤田代付近の伐採を始め現在20名位の人員で行なっており、1年のうちの半分（5月～9月頃まで）くらいしか従事できないそうだ。なお伐採した材木は沼田へ運ぶ。田代の中には、かなりの人跡があり、田代に至る途中には多くの石油かんが散らばっていた。

花沼湿原　（8月13日）

明方から降っていた雨もあがり、6時25分にリーダーの原さん以下、OBの鳥居さん、一年生の高橋くんと僕の4人のパーティーは元気に七入を出発する。荷物がほとんどないのでかなり速いピッチで20分もすると矢櫓沢についた。十分ほど小さな道を進むと右手に砂防ダムが現われる。7時40分から5分ほど休息をとる。あいかわらず沢を登っていくと　15分ほどして3mぐらいの滝にぶっかり、進行不可能なので左に巻くと幸い道に出た。10分ぐらい山道を進み小さい沢にぶつかったので降りてまた沢を歩く。20分ほどして2mぐらいの廊下の滝を通過。8時40分に沢が二つに分われるところで5分ばかり休む。歩き始めるとすぐ2段の4mぐらいの滝があり、左側はがりになっている。15分ぐらい進むと30mぐらいのスラブがありそれから20分ぐらい廊下の滝とスラブが点々と続き沢が二つに分かれる。あいかわらず廊下の滝とスラブがところどころあり、6mの2段の滝にぶっかり進行不可となったので左に巻き降りたところで休息をとる。10時35分に硫黄沢を通過。登りがだんだん急になってきた。点々と滝が散在して進行速度はだいぶ遅くなったがもうそうとう高いところまで来たらしい水が冷たくなってきた。12時45分　沢も細くなって小川のようになったので、沢をでて道のない山に

入る。しばらく花沼湿原を探すのに歩き回ったが見つからない。時間も予定よりだいぶ遅れているので涙を飲んで帰るために黒岩山頂に向かって登り始めた。1時45分　300m下方に花沼湿原発見。じゅうたんのような緑の中に池が二つある。しかし冷静に判断して帰ることにした。2時10分に黒岩山頂に着き15分休けい。鳥居さんの差し入れでちょっと元気を回復して道のない山を降り始める。20分もして待望の道に出た。暗くならないうちに　帰るために　原さんのものすごい　しごきが始まった。僕と高橋は日ごろのトレーニングのせいか若さのせいかどうにかついていけたが、鳥居さんはすこしバテぎみで遅れがちだった。3時50分から15分休息をとった。鳥居さんの差し入れがあったので元気回復。いちもくさんで降りる。雨が激しく降り始めた。4時25分　田代に出る。雨の中を　沼山峠にさしかかるころ雷になった。山の雷はちょっと恐しかったが先輩たちが落ち着いているので安心した。この峠をこせば　もうすぐ七入だ。沼山峠は1時間くらいかかったが、早く帰りたいせいか、2時間ぐらいに感じた。疲れは感じない。6時半ごろ七入にもどった。

花沼湿原には行けなかったが、僕にとっては充実した良い山行だった。OBの鳥居さんの僕ら後輩に対する暖かい心づかいが身にしみた。僕が先輩になったときはああいう先輩になりたい。

長須ヶ玉

8月13日　　五十嵐、宇田川、堀江、須田、

定着地（6:30）── クビレ田代（8:35）── 第2P（11:10）── 長須ヶ玉（12:15）── 大木沢に出る（13:55）── 定着（3:00）

クビレ田代から源兵衛への道をゆき、左の篠竹の中へ入る。倒木は少ないがつるが多い。高尾根でないので尾根の右はじを進む。第1Pと第2Pとの間に田代があった。尾根から2百米もあろうか。第2Pは倒木がはなはだしい。長須ヶ玉は針葉樹と広葉樹が密生していて回りは何も見えない。燧ヶ岳を正面に見ながら真直に下りる。

大　江　山

8月14日　　五十嵐、宇田川、堀江、須田、

定着地（6:35）── 沼山峠（8:20）── 大江山（9:30）── 定着地（12:20）

一日中雨が降り続く、此々へ大江山から出ている尾根の左側を進み、その後最大傾斜で登る。平らで広いので方向がわかりにくい。頂上から三百米位の木の茂っている中に北東から南西にかけて道らしいものがある。どちらへ行っても消えていた。

無名田代　◎

横山、小堀、新沢、他教育学部4名、

七入（6:30）── 実川（7:20）── （8:20）クビレ田代（8:40）── （9:40）紫紺の田代（10:00）── （10:30）紫紺の下田代（11:20）── （12:00）実川 ── （1:30）七入

今にも雨が降り出しそうな天気の中を出発。大きな石がごろごろした東川の川原ぞいに上へ上へとどんどん進む。縦走とちがって荷物がサブザックだけのために、ほとんど休息することなしに進む。最初の予想ではヤブコギと思っていたけれども、ずっと道がついており非常に楽であった。それに、38年に明大ワンゲル部が入ったあとがあり、無名田代を紫紺の田代及び紫紺の下田代と名づけてあった。その他のパーティが入った様子はなし。帰りに横山がわけのわからぬきのこを見つけ、これは食べられるきのこだと主張して持って帰る。帰る途中に、ついに小雨が降り出したので、川の中をどんどんキャンプを目ざして進む。

紫紺の田代　　面積　6400㎡

紫紺の下田代　　2000㎡

状態　両方とも明大ワンゲルのパーティ以外は入った様子なし、広さもかなり広く、湿地状態は腰をかけるとややぬれる程度であった。

植物　赤もうせん、リュウキンカ、ニッコウキスゲ、イングルマ、コバイケイソウ、

8月14日　●時々◎

一旦、6時半に出発したが、たちまち雨にあい、2コースを除いて午後は沈殿。Yはえさなしの釣に出かけるが、収獲なし。又、出かけた大丈隊も前日発見できなかった大丈田代を発見できず。後で調べたところ大丈田代は吾々の考えていたクビレ田代とのこと。

8月15日　○午後◐→◎

⛵(7:00)──(10:10)長蔵小屋(12:00)──(13:30)大清水(13:45)═══(18:30)前橋.

昨日までとは、うって変った上天気。沼山峠まではそのせいか、順調に進む。この峠からの景色は童話の中の様で、とても異国的でもあり、それまでの渓とは対称的である。大清水に着いた途端、雷雨の到来。乗ったバスが途中でパンクして1休みしたが、その他事故なく。全員元気に前橋に到着し、解散となる。

夏合宿の天気

8月3日～8月15日

8月3日　①

今日は非常に蒸し暑い。きょうの天気図では台風11号は北海道東方海上に抜けてしまっており、後に続く台風13号も当然これに続くだろうという予想ができ台風13号の影響はまず95パーセント無くなったと考える。

8月4日　○

きょうも非常に暑く道が悪いこともあり、みなバテギミ、昼ごろ絹雲を観測したが、谷間に居たため、それが前線の来る前ぶれか、雷雲から生じたものか確認できなかった。きょうの天気図を見ると日本海に前線があり、高気圧が南東へ張り出して来ており絹雲が前線によるものだったことがわかった。

8月5日　①—◎—●

朝のうちは晴れ。9時ごろから細かい雨が降り出した。3時ごろまで雨は降ったり止んだりしていたが、後はずっと降っていた。天気図を見ると弱い前線がちょうど頭上を走っており、この前線による雨だったことがわかる。台風13号はまだ東方海上をうろうろしている。

8月6日　●—◎—①

朝のうち雨8時ごろ降り止み、晴れ間が出た。きょうも暑い。朝出発の前は晴れ間が出るかどうか心配だったが出発のときには雲がかなり薄かった。

8月7日　○—◎

きょうは晴れ、夕方かなり積雲が発達したけれど、雷雲にまでは発達しなかった。天気図を見るとシベリアの高気圧が日本海にまで移動して来ている。今夜は2000m以上の高所だしするから、明朝は、かなりの冷え込みが予想される。

8月8日　①

朝はすごく冷えこんだが天気は最上。台風13号はようやく北海道東方沖にまで進んでいる。

8月9日　①

天気はきょうもよいが、日本海には低気圧が現われている。

8月10日　①

けさは霧がものすごい。天気図を見るときのう日本海にあった低気圧は弱まってしまっている。

8月11日　◎—●—◎

朝から曇っており、雲は流れるように速く走り、雨は今にも降り出しそうな天気だった。朝6時の天気図で雨はお昼ごろまで降りそうなことがわかった。出発後すぐに雨となった。11時ごろ雨は止んだ。天気図では前線が頭上を通過したことがわかる。その後方にも前線が連なっており、九州南方には熱低が発生している。今後の天気は下る一方だ。

8月12日　①→◒

朝のうちは晴れ。12時ごろ雷雨。いくつかのテントに浸水あり。天気図を見ると、明日、明後日も同様の天気であろう。

8月13日　◎—◒

午前中曇り、午后はげしい雷雨。天気図によると明日、明後日も同じような天気のみこみ。

8月14日　●—◎

午前中かなり強い雨があった。気温もかなり低い。午后曇り。

8月15日　①—◎—●—◎

曇時々にわか雨。午後強い雨があった。

秋 合 宿

浅草岳・守門岳

10月11日～10月13日　　原(CL) 広田、山田(記録)

10月11日　①

桐生(22:25) ═══ 小出(5:07) ═══ (6:25)大白川駅

10月12日　①

大白川(6:30) ═══ (7:10)五味沢音松荘(7:25) ── 最後の水場(8:25) ── (10:20)△(10:50) ── (11:25) 浅草岳山頂(11:50) ── △(12:10) ── 最後の水場(13:35) ── 音松荘(14:30) ── 大白川部落(16:00) 🚶

大白川駅から五味沢まで音松荘のマイクロバスに乗せてもらう。五味沢から最後の水場まで単々とした野道。朝露がしみる。水場から稜線まで急登1時間。白崩沢を左に見る。ここで浅草山頂あらわれる。ここから尾根歩。浅草手前の三角点で昼飯。頂上直下の草原がすばらしい。頂上より、守門、鬼が面岩壁、眼下に田子倉湖、奥只見の町が見える。同じ道をもどる。音松荘より途中自動車に便乗。

10月13日　○ ときどき ◎

🚶(8:10) ── 守門荘(8:50) ── 守門登山口(9:35) ── 稜線(布引の滝遠望台)(10:15) ── 最後の水場(沢)(11:00) ── (11:45) 守門岳頂上(12:35) ── 最後の水場(13:00) ── 登山口(13:35) ── 守門荘(14:15) ── T.S(14:45) ── 大白川駅(16:34) ═══ 桐生(21:46)

6時起床。12時間眠る。ラジウスの調子が悪く、ラーメンで前夕食と朝食をすます。守門荘より小道だが20分位行くと車道になる。途中頂上の手前に芝のゆるやかなスロープがあり美しい。頂上で昼食。他の登山者が紅葉のかえでの枝を持っていたのに抵抗を感じた。

赤薙山 ── 男体山 ── 半月峠

10月14日～10月16日　　草場、上山、

10月14日　◎ ── ● ── ①

桐生(6:20) ═══ (8:45)東武日光 ── (10:15)霧降の滝 ── (12:45)霧降高原 ── (16:20) 赤薙山下 🚶

日光駅を出たとたん変な外人に「おはよう」とやられペースをみだす。霧降の滝をみにザックをおいて行きまた途中から引き帰すなどして少々時間をロスする。霧降の滝はかなり大きな美しい滝である。霧降高原では、雨と風でかなり冷えこんできたため第3リフト付近にT.Sを設けるも自然をアイスル現実的人間により撤去を命ぜられ設営2時間にて行動再開。一応雨はあがり、風だけになった中を赤薙山下まで鼻水をすすりながら行く。このT.Sからのながめはよく遠く下の方に町のあかりがき

れいであった。

10月15日　①

T.S（6:10）――（6:50）赤薙山 ―（11:00）女峰山 ――（11:45）帝釈山 ――（13:45）小真名子山 ――（15:40）大真名子 ――（17:20）志津小屋 ⚓

T.Sからすぐに山道らしい登りになる。赤薙山頂の展望はそれほどよくない。赤薙と女峰の間にある水場をまちがえ沢をくだってしまい 30分ロスってしまったのですぐに出発すると100mもいかないうちに道のわきに水場がある。とにかく水をつめて出発。女峰の下で昼食をとる。女峰には，すでに唐沢小屋からでも登ってきたのかかなりの登山者があった。中には，いびきをかいて怠惰をむさぼっている者もあり，小生の心を複雑な思いにさせる。女峰を素通りし帝釈にいたる。リンゴもうまいことながら その展望もすばらしい。帝釈を出るといよいよ登りおりが激しくなる。まず富月峠まで300mおり小真名子のかなりのガレ場を300m登る。そしてまた300mおりて大真名子まで300mの登りである。大真名子からは，男体がすぐ目前にひろがり 太郎・戦場ヶ原それに日光白根が一望のもとにみわたせる。そして またここから700m下って志津小屋にヨウヤク着く。

10月16日　①

T.S（6:45）――（9:20）男体山 ――（12:40）中禅寺湖 ――（14:45）半月峠 ――（18:30）間藤．

男体山山頂，快晴展望をほしいままにする。男体中腹の紅葉もすばらしい。二荒山神社よりの登山道は，三合目付近までのびた車道によってなくなっているところがある。中禅寺湖畔は。ハイヒールと背広の間をスゴスゴと行く。半月峠への登りでは，ロープウェイで半月峠に登って元気一ぱい降りてくる若き男女の群がうようよであった。半月峠からの下りはさすがに人かげはなくただ帰途を急ぐばかりである。

巻機山 ―― 苗場山　　満尾，堀江，

10月7日　①

桐生（12:12）═══（16:03）六日町（16:10）═══（17:10）清水

10月8日　①―●

T.S（6:50）――（7:50）4合目 ――（9:50）千両場（10:05）――ニセ巻機（　　）―（　　）T.S

登山口はバスを降りてすぐ左，車道に近道がある，割引沢への道と別れて車道から山道に入る所は道標が下に落ちているから注意が必要である。朝は満天の星だったが，東の空には不吉な雲が発生し，予想していたようにガスる。千両場にてガスの合間に赤・黄・緑と鮮やかな色彩が飛びこんでくる。小屋は満員である。しかたなくテントサイドをみつける。風は強い。果して運悪くポールが折れた。

10月9日　①

T.S（8:00）――（8:30）千両場（8:35）―（9:10）焼松（9:15）―（10:00）清水（10:15）―（11:25）沢口

(12:38) ═══ (12:58)六日町(14:14) ═══ (14:45)湯沢(15:40) ═══ (16:25) 抜川 ── (17:25)和田小屋

昨日霧の中でみた草葉もすばらしかったが，朝日をあびた巻機・ニセ巻機もまたすばらしいものだ。ラクダのモを風がなぜる。その柔やかな葉を返し，白い波がつたわる。草の黄・杉・ハイ松の緑そして己れ美を競わんとして色つけている各々の木。どうして下山することができようか。しかし次の山行がある。お昼まで居るという鳥居氏，五十嵐をうらやみながら重いキスを背負う。草場、小沢は県境縦走の計画であるが。昨夜の天気のため、清水部落から峠を越えて上台に抜ける。横尾．堀江も駒ヶ丹俊に行く予定であったがテント破損の為苗場にする。

10月10月　○

和田小屋(6:25) ── (7:45) 下の芦 ── (8:15) 中の芦(8:25) ── (8:45) 上の芦 ── (9:00)神楽ヶ峰(9:05) ── (10:15) 苗場山頂(11:25) ── (14:10)熊の沢 ── (14:35)赤場

所々の紅葉はきれいであるが志賀高原付近の尾根は巻機よりかなり見劣りがする。神楽ヶ峰ではかなりがっかりさせられた。しかし，急登の後思いがけず開けた苗場の頂上は言葉で言い表わせない程のすばらしさである。つやのある明るい黄色はこころ良い光を発していて，きらびやかな金色よりも数段美しいものである。低い方より見れば真青な空にいっそうひき立つのであった。北アルプスは白く、見、沢のせせらぎと小鳥の声をききながらゆっくり湯にひたった。キノコに魅せられて夕食をいただくことにする。それはすごく美味だった。

10月11日　①

赤湯 (6:45) ── (7:50)棒沢(7:55) ── (9:45) 苗場スキー場(10:10) ═══ (10:20) 三国峠(10:45) ═══ (12:15) 後閑 (12:28) ═══ (14:10)桐生、

棒沢から車道となる。途中山道に入るが入口に気をつけるように。元橋への道標があったが国道に出るのにかなりの登りがあるので，又車道に入り苗場スキー場へ出た。

分散ワンデルング

日光湯元スキー

1月3日～8日　　草場、横尾、原、

1月3日　○

桐生 ═══ (8:49) 日光 (9:05) ═══ (10:30) 湯元 ═══ (10:50) ⛷

雪は昨年よりも幾分少なめであるが昨年と同じサイトに幕営することに決めた。今年は細竹を50cmの長さに切りペグの代りに用いて使用した。又カマボコ型テントを初めて使用したが結構居心地がよいが完全防水なので空気中の酸素が欠乏して朝などはラジウスの火がつかない日があったのは困った。

1月4日　①

朝6時起床して八時半頃からすべり始める。又リフトが動かないのでスキーヤーは1人もいない。大雪原とはいえないが　人のいないゲレンデも又気持の良いものである。

1月5日　①

朝方急に冷えこむ。−15°C　テントの内側は吐息の蒸気が2mm位の厚さにテントの内側一ぱいに氷ってしまって割って仕末する程にはおどろいた。今日も天気は晴でスキーのコンデェション日よりでハッスルする。

1月6日　①

すべて快調に運んでいる。しかし寒さのため丸大根は芯まで氷ってしまってナイフの刃がささらない。ほうれん草、ネギも　すべて　これには一番閉口してしまった。だけれども昼食のモチは美味しく食べられた。量が少なかった。

1月7日　①

美しきと思ゆる女の子の後をついてスベっていく横尾氏、あわや一何を望んでいるのであろうか。山の頂上より熊か雪ダルマが滑り落ちてくる草場氏。ソコノケソコノケ○○が通るの原氏、今日も一日が暮れ夜には美しいロマンティックの月光がさえて遠くゲレンデの灯が雪野に淡く照っている。

1月8日　①

湯元 (15:35) ═══ 日光 (16:50) ═══ 足利

今日が最後なので名残りをおしんでゲレンデに別れを遂げて去った!!

三国山スキー　　内田、藤村、深沢、草場

2月11日　◎

銀嶺号で出発。全員トンネル口でスキーにシールをつけ登り出したがトラバースの所は苦戦した。半分程登った所で後から来たパーティに抜かれる。ここまでトレースなし。昼食をとりジグザグコー

スで登る。峠についたのはほぼ昼頃で正味2時間30分はかかった様だ。神社は屋根までうまっていたが先に登った雪山訓練のパーティが掘り出しにいた。テント設営の後三国山に登り出したが強風のため引き返す。下りで急斜面を斜滑降し多少のナダレを起す。大変危険であった。反省する。

2月12日　◎

大略荷作りののち三国山に登る。途中風のため雪のついていない所がありスキーを抜ぐ。山頂はガスのため遠望きかず。大源太への稜線、雪ピが多い。後三国トンネル新潟口へ下り17号を苗場スキー場迄すべりスキー場で一番高い所までリフトを利用してのぼり思いきって滑りこの山行を終る。
後閑駅でみた日暮の空の美しかった事は忘れかねる。

巻機山スキー　　大浦先生、内田、深沢、草場

3月15日　①

六日町駅で先発でスキーをやってきた大浦先生とおち合う。さらに後発の内田を案じつつ沢口までバスで行く。市街をはずれると、雪はバスの高さまでありバスの窓からは雪の壁のみしか見えぬ。沢口でバスは終点故、ここでスキーを3台集めてくくりつけ、上に荷物をのせ3人でひっぱる。はじめ具合よくいったがすぐに横だおしになる。次に、各自の2本のスキーに各自の荷をつけ引っぱる。田んぼの上を行くときは非常に都合よくいったけれども、道の所に入るとスキーよりはみだしたキスリングがひっかかって苦戦す。のんびりとそんな事をやったり、送電塔によじ登ったりしていたら、後発の内田においつかれてしまった。もっとも彼はユースホステルに泊る故、キスリングの中はパンのみでスキーをかついでやってきたのだ。ようやく清水に着き泉屋ユースホステルの前にテントをはらしてもらう。夕刻に泉屋に行きオヤジさんに山の様子を聞く。夜に、ホステルの内田とテントの中とで普通に話ができるほどの静けさと至近距離とであった。

3月16日　◎

清水発（6:30）―（7:15）割引分岐橋―（7:25）一段目道標―（8:10）井戸の登上部（8:40）―（9:20）森林限界（9:40）―（10:45）ニセマキ―（12:45）巻機小屋―（15:30）清水

スキーにシールをつけて出発。井戸のカベはかなり急で階段登行。内田はスキーをはずしてキックして登る。草場この辺よりくつずれのためおくれがち。スキーで登るもの2人、はずして行くもの2人でニセ巻機山に着く。この辺アイスバーン状なり。ニセ巻機山より小屋付近まで一滑りなり。ここで晴れたので昼食とす。青空と雪の白さがかくべつなり。深沢テントにカメラを忘れたことをぐちる。リンゴや紅茶が非常にうまい。パンはあまりうまくない。しかし登り出すや否やガスがかかり出し、雪のため何も出ていない山頂では何も見えず。ここでスキーにワックスをぬりすべり出す。スピードはごくひかえ目にする。ニセ巻機からの下りは慎重にしないとあぶない。コースを間違える心配あり。両側ともかなり急な谷におち込む。あとは下るのをおしみながらもどんどん滑降する。清水へ着いたころにはもう顔が少しヒリヒリしていたが、泉屋の人が出してくれたお茶とふきがうまい。

3月17日　○

清水発（7:45）―（8:35）井戸下（8:50）――（9:15）井戸上（9:45）―（11:50）ニセマキ（11:55）――（12:15）巻機山山頂（12:40）―沢口

今日は目的達成のため帰る予定だったが，あまりの好天にもう一度登る事にする。しかしくつずれの草場と23才と365日以上をすぎた大浦先生はおくれがちで結局井戸のカベの所で練乳をなめなめ夏みかんをかじってスキーをやる事にする。深沢と内田両名は雲一つない好天下をどんどんとばす。時間がないため巻機山頂でもゆっくりできずすぐ下る。井戸のカベの大滑降はダイナミックな事この上なし。一度ころぶと20m位ずり落ちる。ここで4人そろい清水へ。顔中ヒリヒリしてサルの如し。清水から沢口まで雪がベトついてきたのでストックで押しながら下る。4名中3名は一度もころばず。一名が一度ころんだのみという成績で沢口着。深沢，草場の両名は石打でスキーをすると言い出し，石打で下車。2時間かかって丸山ゲレンデの真ん中までかつぎ上げ21時迄かかってテントをはる。石打の火がきれいなり．（他の2名は帰桐）

3月18日　⊛

ミゾレにやられたテントからは雪もりしきり。草場のみすべり出し，深沢チンデン。夜雪のみとなりこおってカチカチの雪質となる。2名ともナイターですべる。

3月19日

カチカチの雪質かわらず。2名共10:00まで夢中で滑る。荷を背負って下りは2～3回ころんだ。

尾瀬スキー　　4月6日～9日　　草場，小沢，原，

4月6日　○

桐生（7:16）═沼田═（11:30）戸倉（12:00）――（15:00）津奈木沢

バス終点の戸倉までは雪は全然見当らなかったが，戸倉スキー場を右手に眺める頃になっていくらか残雪が見えるようになった。残雪は余りなく「わかん」も必要なく楽にピッチがはかどる。赤沢付近から残雪も深くなってきたが，林道は所々地面が見え雪解けの水が流れている。昨年と同じ津奈木沢の出合付近にテントを張る。すぐ上に小屋があり炭彩に行って雪の量は例年より1mも少ないそうであるとの事だったが，今の深さは1.5m位はあるだろう。夕日に映えた笠の斜面がすばらしい!!?

4月7日　○

津奈木沢（6:30）――鳩待峠（7:25）――（9:00）小至仏山（9:00）――（10:05）至仏山頂（10:45）（11:30）小至仏山―（12:25）笠ヶ岳（12:30）――（13:50）小至仏山（14:00）――（14:50）鳩待峠――津奈木沢（15:15）

出合より電線づいに峠に向かう。途中急斜面が1ヶ所あって危険なだけで簡単に進める。峠より小至仏に向って樹木の中の赤布を見て進む。右手に純白の至仏山頂が青空に調和して非常にきれいだ。雪はしっかりしまっているので「わかん」は必要なく，スキーもはく必要がなかった。小至仏より

右手の尾根に行くともう樹林帯を過ぎているのであたりは一面のなだらかな斜面となりスキーにはもってこいのゲレンデである。途中私の前のピークの北面が氷っていたので注意しながら進んだだけで別に危険はなかった。山頂より尾瀬ヶ原は蛇行している川だけが黒く見えあとは真白な平原であった。燧岳、会津駒、大水上、丹後、中の岳、越後駒、平岳など碧空の中にくっきりと見えて壮大であった。帰路小至仏より時間があったので笠岳まで行く。笠は山頂の手前の急傾斜面に気をつければ大丈夫。小至仏よりコロビながらテントに着く。

4月8日　○

津奈木沢（7:20）— （8:05）1630mP（8:15）— 1927mP（10:00）— （10:40）アヤメ平（13:45）— 鳩待峠（14:10）— 津奈木沢（14:30）

今日も快晴で天気に恵まれている。津奈木沢の小屋のところから中の原に向かって進み「わかん」もいらず楽勝である。アヤメ平で昼寝としゃれ込む。日光が強く雪焼けで皆熊男と化す。アヤメ平は一面の雪平原で　アヤメ平の標識の上に腰を下してのんびりと過ごす。帰路大浦先生がやって来た。帰路、小沢、原の両名が山の鼻の方面に下ってしまったが山の鼻手前より引き返して鳩待峠に向う。

4月9日　○→●→①

津奈木沢（9:25）— （11:50）戸倉（12:00）— 沼田 — 桐生

野菜は小屋の人にやり雨の中をスキーで途中まで下る。雪と砂利の混った中を下ったのでスキーがいたんだらしい。雨は小降りなのでポンチョは着ず、戸倉でタイミングよくバスに乗る。あまりにもひどい雪焼けなので人種変えしたみたいでバスの乗客も見とれている。笑うと歯だけが印象的である。しかし、すばらしいツアーであった。来年も是非行きたいものである。

碓氷峠 ～ 峰の茶屋　　草場

5月5日　①

軽井沢駅（4:40）— （6:20）見晴小屋（6:45）— （9:40）鼻曲山（11:45）— 四ッ曲（12:45）— （14:30）⛩

高原の駅は寝るにはあまりにも寒すぎた。明るくなるのを待って出発した。うすい峠でぽっかり浮んだ太陽を見る。人気のない山道をたどると見晴し台の所に出る。結構な見晴しなり、人気のないのも又良し。鼻曲へ向うと人も何人かいた。鼻曲山頂で昼寝をする、誠に良き気分であった。下りはスタコラ下ればすぐに車道に出る。火山灰土のほこりの中へオートレース場の方へ一人で歩いたが、途中白糸の滝への道があったので県境と別れ滝を見ることにする。滝より又車道を峰の茶屋へ向ったが、最上の水場（工事場の飯場）で水をもらいすこし行った所をT.Sとする。

5月6日　①

T.S（6:30）— （6:50）峰の茶屋 —　以後　小沢の山行と同じ。

浅間山　　小島，草場，小沢

5月6日　①

高崎（1:30）═══ 中軽井沢（5:45）═══（6:30）峰の茶屋（7:00）──（10:20）浅間山（10:45）
──（2:30）黒班山（3:00）──（3:50）車坂峠──高峰高原スキー場 ⛺

峰ノ茶屋で鼻曲山からくる草場さんを待ち、7時に出発する。10分ほど行くと、木々がなくなり石ころだらけの浅間山の山肌が前面に現われた。うららかな春の5月晴の中をゆっくりと登って行くと自然と上瞼と下瞼が合わさり目の前が暗くなり頭がボヤーとして、その辺にひっくり返り寝むたくなってしまう。しかしまだ五月の初旬である。吹く風は冷たい。山頂には少しの残雪あり。山頂で昼食をとり黒班に向けて出発。下バンドでは上から来る人があるのでまわり道をして行く。その途中での眺めのすばらしかったこと。四阿山，上越の山々が雪を残して春霞に霞んでぼんやりと見え手前は，広々とした浅間高原である。黒班山から浅間山の眺めもまた変っていて面白い。黒班山からは残雪のある木々の中を下り車坂峠に着く。高峰高原スキー場の中にテントをはる。水代200円。

5月7日　●→①

⛺（12:00）──（12:15）車坂峠──（12:40）高峰山（12:55）──（1:30）車坂峠═══小諸

朝起きてみると雨がしとしと降っている。今日は篭ノ登山から湯ノ丸山，角間峠まで行くはずであったが断念する。こうなると暇をもてあまし食気ばかり出て来る。たらふくたべてゆっくりとバス停へ向う。バスの出発の時間まで時間があるので高峰山まで行ってくる。あとはバスで小諸まで行くだけである。

方塞山，古峰ヶ原

横尾，江黒，松田，城江，

5月28日　◎→●

桐生（6:48）═══（8:30）足尾──（10:38）柏尾峠（11:25）──（12:40）方塞山（12:50）──（13:50）古峰ヶ原──（15:48）通洞（17:03）═══ 桐生

1日中雨が降ったり止んだりで目的の足尾山系の写真撮影はわずかに男体山が見えただけで中止した，柏尾峠まではバスが通って居るが本数は僅かで利用は期待できない。峠より無線通話機のテストを行う。調子は順当。開拓部落を過ぎると某ヘルスセンターがある。方塞山頂には国鉄の反射板がある。遠くで見た事はあったが　そばで見てその大きさに驚く。古峰ヶ原は家族連れでにぎわっていた。帰りは地図に記載されていない沢筋の道を下った。

尾　瀬

（5月30日～6月1日）　　中島(恒)　他友1人

5月30～31日　①

桐生〜沼田＝大清水（4:00）―三平峠（5:50）―（6:30）長蔵小屋（7:10）―（10:30）燧ケ岳（12:30）―（20分）―燧岳（高い方）（13:10）―（16:00）温泉小屋―（20分）―只見川 ⛺

6月1日　①

⛺（6:15）―（6:30）三条ノ滝（7:30）―（7:50）温泉小屋（8:10）―（8:45）見晴（下田代）（9:05）―（9:35）竜宮小屋（9:50）―（12:10）富士見峠（12:40）―（13:00）アヤメ平（13:30）―（13:45）―（14:15）―（15:40）富士見下＝沼田〜桐生.

日曜でないせいか大清水からの道はすいている。足ならしのため体操をやり人の行った後でゆっくり出発。友が長距離旅行で疲れているため，ゆっくり行く岩清水～三平間はだいぶゆっくりである。あまりおそいところがが疲れる。山荘より長蔵までは水芭蕉がいまはさかりと咲いている写真をとりながらゆっくり進む。時期的に6月1日ごろが一番良いのではなかろうか，ところどころ黄色のリュウキンカも咲いている。　長蔵で朝食，ナデック久保は下まで残雪が残いている。長蔵を出るとすぐ木陰には残雪があり踏跡をたどって行く。途中ゆっくり休憩をとり雪と親しむ。燧では天気が良かったので昼寝をやり昼食をとって高いち（北側）の燧に出発，間の道はずーと雪があり登りも急なので大きい荷物の時はピッケルなども使ったほうが良いのではないだろうか。温泉小屋への道は途中から，雪渓が二百米ぐらいあった。小屋に着いた時は石コロだらけの道だったのでふらふらだった。只見川の平滑の滝近くにテントをはる。テントは二人用だったが一人も入ることができず頭だけかぶせて寝る。

三条ノ滝見物ではリスゴイ水量が多くものすごいもんだ，上から見ていても水しぶきがくる朝の日光がさした時はニジがきれいだった。本道はほんとうに人通りが少い，実にいい時に来たもんだ。アヤメ平は踏荒されてだめになったそうだが見に行く。茶色ないし黄色のかれた草が湿地にこのこり，アヤメなど咲く気もない。池がところどころに散在しておりアヤメが咲けば最高の所だろうに・・・・・

白毛門・朝日岳

6月9日　●+　　小沢，草場，深沢

桐生〜（2:55）土合―（6:05）森林限界―（7:00）白毛門―（8:05）大倉分岐―（8:15）笠ケ岳―（9:30）昼食（10:30）―（00:40）朝日岳（12:10）―（2:20）広河原―（16:45）林道―（17:00）宝川入口バス停＝水上

朝日岳の頂上の朝日ノ原でスキーをやろうということになり，スキーをかついでの山行である，白毛門までの急坂はスキーを持っては非常に苦戦する。森林限界を過ぎて少し登ると雪が現われる。ガスがまいていて彩色はなにも見ることができない。夜行の せいか，やけに眠い。休むとすぐに眠りを始めてしまう。朝日岳の下の風当りが少ない所で昼食を取り，いよいよ朝日ノ原へ。朝日ノ原は一

面残雪にうまっているらしいが，ガスのためになにも見ることができない。しかも滑ってもガスで先が見えない危険である。30分位すべり，宝川温泉への道をさがす。宝川は残雪でびっしり埋っている。足が凍ってしまいそうな徒歩をして宝川バス停へ。

水戸・水郷，南房総方面 サイクリング

（7月13日～7月21日）　　堀江，松田，他二名．

7月13日(木) ◎ —○

太田（5:30）— 足利（6:10）— 佐野（6:40～7:10 パンク修理）— 小山（8:00～8:15 休）— 結城（9:00）— 下館ドライブイン（9:50～10:30 休）— 真筑波ドライブイン（11:05～11:20 休）— 福原（12:20～12:45 昼食）— 水戸，大塚の池（14:55～15:05）— 市内にて夕食の買物（16:20～16:30）— 大洗海岸（17:00）— ⛺

最初の計画としてはできるだけ名勝その他を見て回るはずだったが，いざ行ってみたところ，そんな気持になれないので，省略したのが多い。その例として 13日は水戸の郊外にテントを張って偕楽園あたりを見るつもりだったのだが，海辺に寝ようということで大洗まで行くことにし，磯前神社のテント場（1人・50円）を借りた。道路状況全て良好。 全行程 約135.5Km．

7月14日（金）　①

⛺（7:10）— 鹿島まで34Kmの所（8:05～8:20 休）— 鉾田（8:00～9:15）— 麻生（10:40）— 中食（12:00～13:00）— 佐原（13:35）— 成田まで16Kmの所（14:35～14:55）— 成田（15:33）— 佐倉（17:33）— 千葉大・医学部 ⛺（19:35）

大洗のテント場から国道51号線の入口の景色は，海の波，砂浜，ガードレール，四車線道路等 素晴らしく，この道路に期待をかけたが 30分と続かないうちに，ほこりだらけの道路となってしまい，成田まではとにかくひどい道であった。しかし成田から後半は良いことのつみ重ねでした。成田のパン屋で牛乳代を無料に，千葉大では ふとんのあるへやを借りることができたしだいです。

全行程 118.0 Km

7月15日（土）

千葉大医学部（7:40）— 房総ドライブインにて朝食（8:05～9:05）— 袖ヶ浦（9:38）— 木更津（10:30）— 中食（11:35～12:20）— みなと金谷（13:30～14:10）— 館山（15:26）— 州崎（17:00）— ⛺

千葉大には大変お世話になり，畳の上で寝せてもらい，ふろにも入れた。国道 16号線は，セメント車が多くて恐ろしかった。館山のキャンプ場は，ものすごい混雑ぶりで，何となく，そんな所でキャンプをする気持になれないので 予定を変更して キャンプ禁止区域の州崎まで行き，そこでキャンプした。　全行程 105.9 Km．

7月16日（日）　○

⛪（5:40）――ドライブイン（6:45～9:15）― 白浜（9:40）― 中食 ― 海水浴 ― ⛪

州崎からの有料道路フラワーライン沿いは、南国のような景色で素晴らしかった。ドライブインで大分時間を取っている。，これは昨晩の睡眠不足を　おぎなうために寝た，我々は白浜では、一般の人達からは離れた所にテントを張り、午後海水浴を楽しむ。地元の海人達はラジウスを見て　素朴に驚ろいていた。そして，彼らには何となく純真さがあって好意がもてた。　海人さんには　とうもろこしや、すじかをもらった。　全行程　27.0 Km

7月17日（月）　○

⛪（7:50）――和田町（9:00～9:10　休）―― 鴨川（10:30 ～ 11:15）スポーク換え ―― 興津（12:20 ～ 12:35 休）―― パンク修理（12:45 ～ 13:30）―― 一の宮（16:45～17:30 休）―― 東金（18:45 ～ 18:55）夕食 ―― 斎藤宅（19:05）

この日は，パンクその他の修理のために相当計画が乱され，結局銚子まで行くことができず，部員である斎藤君の家にお世話になったしだい。　道路は良，全行程　121.0Km．

7月18日(火) ◎ →● →① →○

斎藤宅（8:05）― 作田海岸（9:15）――斎藤宅（11:00）―― 雨やむのを待つ、中食 ― 出発（13:30）― 八日市場（14:48 ～ 15:30）―― 旭（15:38）― 飯岡燈台（16:20 ～ 16:30）―― 銚子（16:35）―― 松岸（19:30）―― 🏠

午前中は　作田海岸にて　浜ぐりとり，小さいが結構とれた。　出発時刻に雨が降り出したので，やむのを待ち出発，別にパンクも起きずに銚子，松岸へ着く。　全行程　83.4 Km．

7月19日（水）　○

午前中は四人一緒に銚子の海へ海水浴，午後は　二つに別れて　銚子対岸の舎利浜へ　浜ぐりを取りに行く者と，利根川で　しじみ及び　はぜつりをする者とに別れた。舎利浜へは自転車で行く距離はだいたい 12 Km

7月20日（木）◎

松岸（12:55）―― 佐原市外（15:35 ～ 15:50）―― 工場手前（16:40 ～ 16:55）―― 夕食用買物（18:00 ～ 18:15）―― 藤沢小学校にて ⛪（18:45）

別にこの日は変ったことはなかったが　夜になってから驚ろいたことがあった。　藤沢小学校というのは　筑波山のすぐ近くであって，例の「がまの油売り」が出る所だそうです。そして　我々が　校庭にテントを張った日に，がまの油売りではないかと思われる人が，一本の刀をもって　それを振り回して練習をしていた。月夜の晩で何か中国にいるような気がした。　行程　101.3Km．

7月21日（金）

藤沢小学校（6:40）――（8:05 ～ 8:15 休）――古河（9:30 ～ 10:20）― 太田（12:20）

筑波山による予定だったが　とりやめ。　一路太田へ。

東大雪縦走　　8月6日～8日　　広田，部員外2名

8月6日（日）　①

札幌（7:45）═══ 上川（10:50）═══ 層雲峡（11:45）ロープウェイ　黒岳登山口（13:00）── 黒岳山頂（15:10）── 黒岳石室（15:50）⛺

今年　ロープウェイができたと聞いていたが，一体どこまでなのかはっきり分らなかったので，一日目，どこまで行けるか心配だった。黒岳の登りはきびしく。おまけに単調なので皆バテてしまった。

8月7日（月）　○ → ◎

⛺（6:30）── 北鎮岳（7:45）── 間宮岳分岐（8:30）── 旭岳（9:30）── 間宮岳（10:45）── 北海岳（11:20）── 白雲岳（10:45）── 忠別岳石室（16:00）⛺

昨日は予定より大幅におくれたので，今日はとばした。白雲からは，いわゆる「銀座コース」に入ったので熊に注意しながらどんどん進んだ。旭岳がゴミだらけ ── 浅間山頂よりひどい ── だったのにはガッカリ。でも本州にはちょっとみられない広大な高原を，我々3人だけが歩いてゆくのは快かった。熊にそなえて笛を「ピー，ピー」鳴らしながら行くのは大へんこっけいだ。この夜芝工大WVとご一緒になった。

8月8日（火）　◎

⛺（7:45）── 化雲分岐（8:45）── 化雲岳（9:50）── 小化雲岳（10:30）── 羽衣の滝（13:50）── 天人峡（14:55）═══ 旭川（16:30）═══ 札幌（22:35）

台風11号の影響で天候が悪化すると聞き，食料の関係からトムラウシ断念。残念がって何まいもその姿を写真に納めた。おどろいたことに，山ベノにニッコウキスゲが群をなしていた。帰りは16Kれの下りを　だらだら降りた。

（付）　その他は札幌の友人宅を拠点に歩きました。今回の目的が大雪だったので，その記録だけを載せました。

八ヶ岳本峰縦走　　根岸

8月13日　①→●　国立（7:00）═══（10:35）茅野（10:50）═══（12:27）渋ノ湯（13:00）──（15:00）黒ユリヒユッテ横⛺　　日曜日朝のせいもあって急行第1アルプスは山へ行く人で超満員であった。新宿から乗らない限り乗るのに相当苦労するだろうとは思っていたが到着した列車の混み方は想像以上であった。キスリングなどしょっていたら多分ダメだったろうが幸いサブザックだったので駅員に助けてもらってなんとか乗り込んだ。もちろん茅野迄立ち通し。参考迄に茅野駅前の信州ソバは　値段の割に味，量，質共に良くないから食べない方が良い。この頃からガスがかかり始め冷え込んできた。なんとなく2時間程歩いたら少し平らな所に出た，そこに割と立派な黒ユリヒュッテがあった。水場が凍れていたのでもらいに行ったら1人2ℓしかくれなかった。八ヶ岳の幕営地はこことキレット小屋しか指定されていないから注意。夕方から風雨が強くなった。ツュルトなので非常に困った。

8月14日 ●→◎ 🚶(6:00)—(7:20)東天狗岳(7:30)—(8:00)根石岳—(9:00)夏沢峠(9:10)—(10:20)硫黄岳(10:30)—(13:20)赤岳石室(14:30)—(15:00)赤岳(15:20)—(17:10)キレット🚶

ガスで視界は非常に悪かったが雨が小止みになったので出発。足元しか見えないので歩いていたらいつの間にか夏沢峠に着いた。立派な小屋があって割合と感じ良い峠である。視界は相変らずきかないがガスが少しかわいて来た感じだった。しかし出発するとすぐ強風と雨にさらされた。途中とうとう横岳が分らなかった。又ハイマツにかこいがしてある所があったりして面白くなかった。クサリ場がいくつかあったがそのうち一ケ所ヒヤリとする所があった。参考迄に夏沢峠でスイカを売っていた1ケ ハンドボール位で600円也。悪天候の為赤岳石室で昼を食べつつ様子を見ることにした。1時間程でガスが晴れてきたので出発した。赤岳頂上では南アあたりが少し見えた。ここからキレットまで ものすごい急なガラ場で落石に気をつけながら下ったがヒザが笑い始めた頃キレット小屋に着いた。5分程下ると水場 2分程下った所が幕営指定地。雨が止んだので助かった。

8月15日 ○ 🚶(7:00)—(9:00)権現岳(9:30)—(10:40)青年小屋(11:00)—(11:30)編笠山(12:00)—(14:30)小淵沢駅 🚃(17:30)国立

やっと日の光を拝めたが 西側はガス，東側のみ晴れであった。ここから権現岳迄1ピッチで行った。途中鉄製のハシゴがフラフラしているから注意。頂上直下の登りは苦しかったが展望は素晴らしかった。奥秩父 南ア，中ア等が目の前である。ここからこれからのコースが一望の元に見渡せる。編笠山直下の青年小屋は立派な小屋であった。編笠山頂は広くて感じが良い。ここから真すぐ南へ下ると小淵沢駅であるがバスが入っていないので4時間近く広大なすそ野を歩かされるはずであったが僥倖は運よくトラックに乗せてもらえたので助かった。小淵沢駅からみた編笠山権現岳等八ケ岳連峰はかすんで見えた。天気さえ良ければきっと素晴らしい山行になったろう。一度は歩いてみると良いコースである。

秋田駒ヶ岳 岩手山　　8月22日～27日　　原，外1名

8月22日 ◎→●→①

(9:24)
桐生 🚃 小山 —(13:45)盛岡(17:00)—(18:20)国見温泉入口(18:25)—(18:45)国見温泉

前夜の急な天候が悪く明日からの日程を心配しながら旅立った。以外に天候の流れより電車の方が早く，途中少し雨が降った位で盛岡は晴れであった。時間の都合により盛岡の市中見物としゃれ込む。

岩手公園の高台から城跡にたたずみ遠方に富士のごとくすそのを引く岩手山を眺めることが出来るが今日は台風の影響で中腹以上は厚い雲に覆われているのが残念だった。市内を流れる北上川は清流にふさわしい名前に反して褐色の濁水となって流れていた。かってあの北上夜曲の淡い清純な初恋の哀歌も今となっては現実の悲しみを知るばかりである。一路バスに揺られながら今日の泊まりである国見温泉に向かう。石川にそって行くにつれ 昔の名残りを象徴するかの様に南部の曲り家が目につく。新しい感激がわき起こる。そして 硫黄臭い国見温泉にたどり着く，

8月23日　○

国見温泉(7:35)―(8:35)尾根上(8:50)―(10:35)横岳(11:15)―(11:45)勢部水場(12:00)― 湯の森山(12:30)―(13:45)荒森山(14:00)―(15:10)烏帽子岳(15:50)―(16:20)田代平山荘

蒸気のわき上がるボーリング場の横を通り過ぎ広い登山道を登って行くとすぐに秋田駒ヶ岳の長いアプローチの尾根上に導き上がる。真正面に女岳、男岳、横岳が大きく見える。そして田沢湖が朝の光を受けて青く沈黙を保っている。遠くに鳥海山に　初めてお目にかかり満足感にひたる。彼方に逆光を浴び雲海の上にポッカリと顔を出している早池峰山。すべて快晴の空の下に映えている。横岳の手前に火山砂石礫の山稜に点々としている高山植物群に目をうつ。可憐なコヌクサ、紫がしみ通るホオヤマリンドウ、トリカブト、黄い花のキリン草などが咲いている。見事な美くしさに秋田駒が調和してきめの細い、　艶やかな感じを与える。湯の森を過ぎ、荒森山の山頂に起って　下方を眺めれば、真珠のように　キラキラと輝いて　無数に散在している　千沼ヶ原の池塘が目につく。こゝから烏帽子岳への道のそこかしこには花がいっぱいでふと立止まり我を忘れる楽しさである。烏帽子岳は別名乳頭山の呼び名がある。その通り全くその様な山容であり美くしい。この山頂に立って山容山々、豪快な風貌である岩手山が正面に見える。反対側には　霧にかすんでしまった駒を、今日の縦走路の尾根が見える。眼下には、人にあまり知られていないというお伽の国田代平が広がり、赤い小さな山小屋がポツンとあり我々を迎えてくれているかの様だ。

8月24日　●→◎→①

午前中風雨強く沈殿を決めた、やがて10時頃になると風も雨も止み、烏帽子岳が霧にかくれたり現われたりしている。田代平に飛び出し散歩する。今日も高山植物にお目にかかる事が出来至極満足である。チングルマ、四葉シオガマ、ウメバチ草、ギボシ、イワイチョウ、etc そして南限であるオオシラビワが田代のあちこちにあった。

8月25日　①→○

田代山荘(7:55)― 烏帽子岳(8:30)―(9:40)千沼ヶ原(10:30)―(12:10)平ヶ倉沼(12:50)― 自動車道路―(14:10)綱張温泉入口(15:05)― 綱張温泉(15:20)

ガスのかかっている烏帽子を後にして滝の上温泉に下らず千沼ヶ原に向う。ガスに濡れたウスコキ草が一段と情緒をかもし出し、ツウロがアクセンクを添える。もう八月も終りだというのにキスゲが群落しており、ウサギ菊、大文字草、ギボシが咲き乱れている。実の所こんなに高山植物にお目にかかるとは予想していなかっただけに嬉しい。オオシラビワの林を抜けると突然千沼ヶ原が目眼に表われる。ミツガシワの浮いた池塘が青空を映し、湿原の中により集まる風景はまさに山上の仙境を思わせる。まして秋空のたなびく池塘に岩手山が写った時など申し分ない程である。いつしか空は快晴になり、烏帽子は一層輝いて見え、岩手山はより雄々しさを増す。千沼ヶ原からは滝の上に通じる車道に出てそこから親切にも自動車に乗せてもらい、　綱張温泉入口まで便乗し、ここから今日の泊まりである綱張温泉までバスで行く。

8月26日　○

温泉(6:30)—(7:15)元湯(7:25)—(7:55)犬倉山(8:00)—(8:50)黒倉山—分岐(9:15)—鬼ガ城尾根—不動平(10:15)—(10:35)岩手山—頂(11:00)—(11:10)奥の宮—大地獄(12:00)—分岐(12:10)—黒倉山(12:20)—犬倉山(12:30)—(14:00)温泉—繋温泉(15:40)

今日も又晴天に恵まれて申し分ない。登山道も幅が広く立派である．ブナ林の登りが続きやがて開けるころ元湯に着く．地球の内部からの息吹を発散させるかの様に噴煙を上げている。ここから真上に犬倉山頂がある。犬倉山頂より八幡平の縦走路がはっきりと一本の筋となっているのが見える。

ここから一度下りオオシラビソの樹林帯を登り切れば犬倉山頂がある。もう岩手山が目前に大きく広がっている。ここから平たんな道路をたどって「切通し」の分岐に出る。ここより鬼ガ城の縦走路を行く事にする。時間の関係もありピッチを速める。この尾根上より　小岩井農場が見える。遠く盛岡の市内までがはっきりと良く見える。左手には御鼎代湖と御釜湖の二つの火口湖が青く澄んでいるのが印象的であった。信仰の山としての山頂には、奥の宮があり異様な墓があちこちに存在してて奇妙であった，山頂より眺める景観は絶景に値する程である。北上川も見え，松尾鉱山の煙，地熱発電所の蒸気，八幡平へ通じる道路などが良く見える。帰路は火口原を通って「切通し」に出て戻る，今日の泊りは繋温泉とす。

8月27日　○

繋(9:00)═盛岡(12:55)═(20:14)小山═桐生(22:24)

最後の今日も快晴に恵まれ岩手山に別れを告げ一路盛岡へと向う，かつての啄木のように駅前にボンヤリと考え込み人々の行交うをながめ，話声に耳をかたむけるが，何を話しているのか全然わからなかった。でもそんな感じに浸る事が出来今回の楽しき山行を終る。

浅草岳 — 守門岳　　小沢

9月9日　●→①

新前橋(1:01)═══(6:10)大白川駅(6:10)═(6:50)音松荘(7:00)—(7:45)最後の水場(8:00)——(10:05)鬼ヶ面分岐(10:10)—(10:20)浅草岳山頂(10:50)—(11:00)分枝(11:15)—(12:50)鬼ヶ面山(13:00)—(13:15)独標点(13:15)—(13:45)マイクロ中継所(13:55)—(14:05)六十里峠(14:15)—(17:45)末沢部落(18:00)—(18:10)守門荘(18:40)—(19:30)守門荘小屋 ⛺

新前橋(1:01)分発の夜行で行くと，小出で約30分待って大白川に早朝に着く。汽車をおりて2分位歩くと，マイクロバスが来て乗せてくれるというので便乗させてもらう。これは浅草岳登山口の五味沢部落にある音松荘という宿泊所のバスであった。そこの主人に浅草岳の話を聞き，登山カードを出し，7:00に出発する。早朝は天気よく，青空も見えていたが，歩き始める頃から雲が出て来た。最後の水場まで来た時とうとう降り出し，一人旅でもあるし，ひき返そうと思ったが，雨の中の山道も何か趣きがあるんじゃないかと，なぐさめながら，森林限界あたりまで来ると，雨も止み，大陽が出て来て

霧もなくなってきた。そうすると登る元気も出てきてピッチ上がる。頂上に着いた時には，只見方面は雲海，その上夏合宿で行けなかった朝日，丸山らしきものや，会津駒ケ岳，越後駒ケ岳が見え，反対方向には富士山に似て裾野の長い守門山が見え，我を忘れて写真を撮りまくる。頂上での解放されたすがすがしい気分を心に残して，鬼ケ面山に向う。この頃から又ガスが出始め，鬼ケ面山に着いた時には何も見えなくなってしまった。こうなってくるといつもの一人旅のさびしさや，心細さを思い出し，無我夢中で歩き出し，中断所まであっと言う間に下ってしまった。

9月10日　◉

本(6:00)---(6:30)林道(6:50)---(8:55)水場(9:00)---(9:40)守門岳(9:45)---(10:10)田小屋分岐(10:20)---(11:17)林道(11:17)---(13:00)大白川(13:55)〜〜新潟橋

朝，目をさましてみると，今にも降り出しそうな空模様である。食事をしているとパラパラ雨が降り出してきた。ビニールフライをかぶり，いそいでパッキングをしてメトポトボと守門に向って登り出す。ときどき晴れるもすぐにガスってしまう。頂上に着いても晴れそうもないのですぐにくだり始め大白川駅に着いたのは13:00だった。

志賀高原

10月9〜13日　　中島恒弘

10月9〜10日　①

桐生〜〜渋川〜〜長野原(5:30)---(6:00)草津(9:33)---(10:10)白根火山---大釜半周(10:40)---(12:30)渋峠---(13:00)横手山頂---(15:30)熊ノ湯---前山の渋池，ヒョータン池，---木戸池(16:50)本

一人旅（放浪）であるからテントは無しのスキー用リックにシュラフ一つを入れて出発。時刻表もなく渋川の駅で待っていると，上野発長野原行の臨時がたまたまあり，ふるえながらガラガラの車内に飛び込む。草津では湯もみを見ようと行ってみたが，見物人が多過ぎて見られず，露天風呂があるという西ノ河原に行ってみる。川が湯となって流れておりそばに池になっているのが露天風呂である。近くに滝が作ってあり岩の間からは湯けむりと共にイオウのにおいがプンプンする。草津に来たからには湯に入ろうと銭湯をさがす湯畑の近くの滝の湯がそれである。中に入って金を払おうとしたがだれもいない人に聞くと金は，いらないそうである。こんな所で金を取るやつがあるかといって笑われる。湯は熱くみんな真赤でゆでダコみたいで老人が多かった。その横には特に熱い湯があり手を入れるだけでひりひりする。湯は恋の病の他は万病にきくといわれており特に皮膚病にきくようだ残念ながら俺には持合せの病気がなかった。白根火山はバスから降りてすぐである。10分も登れば外輪山に着く火口に下り湯釜に手を入れてみたが熱くはない。渋峠ー横手山ー熊ノ湯ー前山まではすべてリフトで行くことができる。休日だったせいかほとんどリフトが動いて観光客をはこんでいた。横手山では草の上に大の字になり充分昼寝をとった。冬には絶好のスキー場である。渋池，ヒョータン池はうっそうと茂った針葉樹林の中にひっそりとある。木戸池ではシュラフカバーをかけ月を見ながら眠りに入

る。夜中寒いと思って見るとシュラフとカバーとの間に霜が下りている。キルティングを着てふるえながら一夜を過す。

10月11日　①

⚓木戸池(7:15)═(8:00)湯田中(8:30)┅┅中野═善光寺(17:37)═(18:29)粕原═(18:45)野尻湖畔⚓

朝起きた時は少し寒かったが，大変すがすがしく霜柱のガサガサという音を聞きながら出発。湯田中へのバスは白樺並木と紅葉がすばらしかった。長野へ行く途中リンゴ園があるという中野という駅で降りた。これは僕の前からの念願である木になって取りたてのリンゴを喰ってみたいという願いをかなえるためであった。駅から歩いて10分ぐらいでリンゴ園があり，その時はスターキングで一かご四百円ぐらいのリンゴがりがあった。荷物になるといやなのでただ木から取るというのでスターキング一個と国紅二個で百円にしてもらった。少し高かったがやはり取りたてを喰うというのには魅力があった。リンゴ園に入り取りたてを洗って1分以内に口に入れることができたのである。善光寺は何八百年もをもっていれば立いい所なのかもしれないが建築もそんなにいいとは思えないしつまらなかった。ついで「歴史を語る名刀展」というのをやっており中に入りそれのほうが長野県というものを知るよりよかった。全国から戦国時代の武将の愛刀が集められており黒田節にある槍正宗もあった。刀剣は神がかり的物であるがぐっと引きしまった何か人を引きつける力を持っている。

10月12日　○

⚓野尻湖畔(5:30)── 野尻湖畔半周(9:00)── 一茶をたずねて── 粕原(12:15)═ 直江津 ═ 市振(16:30)── 親不知海岸(17:00)⚓

船着場で泊った。新しい砂の中を歩きはじめる。約半周した所で妙高，黒姫，戸隠の三山がとても美しく見える。しかし三山を一望にするには半周しなければならない。このながめはすばらしいさっそくカメラに収める。三山をあとにする。朝買った一茶の俳句本を持って一茶の碑や俳諧寺を訪ずれる。碑や墓などは別段に興味あるものではないが，貧しいながらも一本筋持の人の暗さというものはどこから生れるのであろうか。わびと寂び，孤独や，孤独のかしずき。親不知に行くには市振駅で降り日本海を下に見ながら45分ぐらい国道を歩くとトンネルの前に下り口がある。海岸に下りるともう暗くなってきたので，シュラフを取り出し砂の寝床におもむく。直江駅で買った巻ずしは，なかなかうまい，色々な山菜を種にして巻にくるんだすしで風流な味である。ラジオを入れてみたが全然入らない。遠くで長距離トラックの音が聞えるだけで，波音と暗黒の大海，大空がはてしなく広がっている中で眠りにおちいる。

10月13日　○

親不知⚓ ═ 金沢 ═ 帰郷

切りたった海岸線を後にして一路金沢に向って出発。兼六公園を見学する。車内でビールを飲み疲労感と共に帰途につく。この旅行は宿泊費をけずり名物などを食うようにつとめた。非常食はチーズとヨーカンを持ち毎日リンゴと牛乳はかかさず飲んだ。やはりこの旅行も一種の見物に終った感がある。

その土地の人と話をすることも必要だ　だといってあまり世わになるのは気がひける。

奥鬼怒及び奥日光

10月11日～10月14日　　伊藤哲

10月11日　◎

桐生(12:14) ═══ (13:13)栃木(13:41・快速) ++++++ (14:10) 奥鬼怒川温泉(14:10) ═══ (17:45) 川俣 ⛹

桐生を昼に出発した為川俣に着いた時はもうあたり一面真暗であつたので、飯場の人に聞いて良い所にツエルトを張つた。飯は下宿で作って来たニギリメシとウインナーのスープで済ます。ツエルトがあまり小さいので体を曲げて寝る。

10月12日　○→◎→●

川俣(6:30)― 女夫ガフチ(7:20)― 八丁の湯(8:50)― (9:30)日光沢の湯(9:45)― (11:10) 鬼怒沼(12:30)― 滝(13:40)― 日光沢の湯(13:50) ⛹

良く晴れた朝であつた。そして太陽が眩しかつた。川俣―女夫ガフチより少し行つた所迄バス道路が出来ていたが、今その先を工事を行つていて危険である。しかし風景は良かつた。バス道路より途中から左手に曲つて川を渡る。そして少し林を通つて行く。道端に洪政のハイキングクラブが赤い旗を下げてあつた。又川原に出る。途中に温泉が沸き出ている所があつた。川原は人が多く通る為に平らになつて歩き良かつた。又少しいくと林がありその中に八丁の湯がある。小屋の裏には滝があつた。又川原を行つて、日光沢迄行き、デックを預けて鬼怒迄ピストンする。道は良い方でもあり。沼はゴミを一ヶ所に集めているが、何か温泉郷の中を歩いている様な感じ！　しかしチトウ氏山を映して美くしかつた。日光沢の所の紅葉は非常に美くしかつた。

10月13日　◎→①→◎→●

日光沢(6:30)― (8:00) 分岐点(8:05)― (9:35)根名草(9:50)― (12:30)念仏平(13:10)― 金精峠(13:40)― (15:00) 湯元 ⛹

日光沢より根名草迄の登りは少し急だつた。特に分岐迄。分岐を過ぎてから、地図に無いガレ場、3ヶ所ほどあつた。いずれも大きくて少し苦しんだ。根名草近くになると男体や日光山脈が良く見え、且つ　鬼怒沼などが良く見える。根名草山頂では菅沼が良く見えた。山頂もやはりきたなかつた。金精峠はだらだらとした起伏が続く。念仏の小屋もだいぶ荒らされて来た。水場はゴミの山であつた。金精峠から下に降りる途中の道はガレていて危険であつた。

10月14日　●→◎→●＝

湯元(8:30)― 戦場ヶ原(9:30)― 赤沼バス停(11:00)― 船着場(11:30)～～～ 中禅寺(12:00) ═ 日光(13:20) ═══ 桐生

霧の中の湯元を後に戦場ヶ原は人はだれも居なく、紅葉と同時に枯葉が多かつた。赤沼迄の林道は非常に悪るかつた。（伊藤）

松島，蔵王，猪苗代旅行

（10月14日～10月17日）　　松田

10月14日（土）　◎→●→①

足利（7:03）═══ 宇都宮（9:00）═══ 仙台（12:35）── 昼食，その他 ── 仙台 ┅┅ 本塩釜（14:25）── 松島湾遊覧（15:00～16:00）┅┅ 仙台 ── 市内見学・夕食 ── 青葉城跡・無線 ═══ 東北大・有明寮着（23:00）

昼頃は雨模様だったが，松島湾を遊覧しているうちに夕日が出て来て、かえって素晴らしい景色を見ることができた。夜は高台を求めて青葉城跡まで歩く，仙台駅から25分くらい，そこに行き大望の無線電話を行なう、順調。

10月15日（日）　○→◎

仙台（8:40）═（エコーライン）═ 刈田岳山頂（11:20）── 頂上で通信 ── 山頂発（13:30）═══ 山形駅 ═══ 寒河江（17:30）

頂上付近は，ガスに見回われたために，釜を見ることができず予定していた熊野岳にも行けずただ冷たい風のふく所で一時間くらい振えながら通信を行なった。

10月16日（月）　○

寒河江（6:15）═ 山形市役所前（6:45）═（スカイバレー）═ 猪苗代駅（11:30）── 猪苗代湖付近散歩（11:30）═══ 五色沼入口（14:10）── 沼見物 ··· 五色沼入口（15:56）═ 野地（17:00）═ 福島駅（18:00）── 市内見物・夕食 ··· 福島大学・旭寮（23:00）

山形から猪苗代迄では途中スカイバレー（まだ舗装されていない）を通って約5時間，景色はもちろんですが、あまり山形側から猪苗代の方へ行く道は開発されていないためバスに乗っていた客は自分を含めて3人）すばらしかった。これもあと1・2年で舗装されてしまうことでしょう。帰りはスカイラインを利用する予定だったが都合により野地経由福島行を利用（運賃100円位違う），できれば　磐梯高原でテントを張りゆっくりとしたかったが宮の関係上やむを得なかった。

10月17日（火）　◎

福島（13:02）═══ 二本松（13:44）── 霞ヶ城跡・菊人形見物 ── 二本松（16:57）═══ 小山（19:23）═══ 足利（20:33）═══ 太田（21:00）

友人と一緒に二本松の菊人形見物・霞ヶ城から見た景色はさえなかった。

神津，荒船山

10月28～29日　　山田，他部員外17名

10月28日　◎→①

桐生（22:25）═══ 高崎（23:30）

10月29日　◎→①

高崎(3:04)┈┈下仁田(4:20)═══(5:30)ガーデンハウス(6:00)── 物見岩(6:55)──物見山(7:25)──(8:05)神津牧場(8:45)── ガーデンハウス(9:35)──(11:30)荒船山(13:25)──三ッ瀬(15:10)═══下仁田(16:21)═══桐生(18:36)

ぼくの属している他のクラブの連中と教育学部のそのクラブの人たちと行く。その為，山へ登るというより親睦をかねたハイキングである。前橋起点なら日帰りで行けるのだが桐生起点で女性を混えた多人数なので夜行にする。高崎で3時間半待つ，29日6:00にガーデンハウス出発．のんびり歩くが霧が濃い。物見山頂では山景が望めない。9時ごろから晴れてくるとともに浅間，八ヶ岳，アルプスの雪化粧があらわれてくる。風はますます強くなっていく。荒船山頂で昼めし。ワンゲル料理をふるう。全体を通して，女性がいる為ペースも遅く。ひっぱって行くのに苦労した。部員外の山に対する意識を知り，公ワンなどへにも参考になった。

苗場山

（11月3日～11月5日）　　（深沢，草場）

11月3日　◎→●=

新前橋(1:01)── はらい川(7:35)── 苗場山頂(14:00)

湯沢で寝ている内に，登山者がウヨウヨあられれバスに乗るのに列を作る。我々は一番後にいたためステップの所に立ち人数と相成る。登山者というのはどうしてこう多いんだろうと思う。はらい川では多少雨がパラつき雨具を用意す，和田小屋下で朝飯を食う。かなり濃いガスで視界0．5Km位。和田小屋では多勢の人が休んでいたので我々もゆっくり休み，一番後からノコノコついて行く事にする。2人共昭和10年代（とはいっても元もハイティーンの10代だョ）の生れとあって，登りながら他の連中に抜かれても一向に感じない年となった事を発見する。下の芝の辺りから雪があらわれスリップする。滑っても危くはないが，ヨゴレルのでストックをつく。2，3のパーティと前後しながら登る。こっちが抜くのは相手が休んでいる時で，すぐ又抜かれるのである。雨が降ったり止んだりで雨具は出たり引っ込んだりの大忙がし。ガス一面の山頂は人のトレースを行く。うっかり足を踏み抜くと池塘の中へ足を踏み込む。小屋近くは登った人数と下りに合った人の数の差よりもずっと少くひっそりとしていた。きっと和山へ下った人が多かったのだろう。夜はコーフェルーぱいの混ぜ飯を食い切れずすぐ寝てしまったが，夜風に目を覚させられる事しきり。

11月4日　●－①

山頂(10:20)── 赤倉山頂(14:20)

夜から朝にかけ，風，雨，雪，蒸し。(9:00)まで寝ていたが多少の時間が見えたので，昨夜の残りを食い出発す。山頂より妙高美くし，鳥甲は残念にも見えず。新雪約10cmの中を赤倉へ，コース選択に苦労す。天狗の庭分岐より急に悪路に化し，下着までびしょぬれ。ヤブをこいで赤倉山頂に出た

時は疲労激しく，下山を決める。赤倉山頂で火をもし乾かす。暗くなる頃，他のパーティ、赤湯―苗場―赤倉とやってきたが，日没のため我々と共に 🏠

11月5日　◎→ ●

🏠(6:50) ― (8:40) 赤湯(10:35) ― 苗場スキー場(14:20) ― (15:20)三国トンネル群馬口バス停

悪路のはずの赤湯への下り道は上部のみ荒れていたがさほどではなし。途中でナメコをとる。赤湯で温泉につかりナメコ汁を作る。2人では食い切れずすてる程なり，湯からは初めチンタラ歩いていたが車道に出てからはピリッとしまり，後半は約2時間余全く休まず。トンネルを正16分00秒で歩ききる。排気量0ccのG.T 2台は17号をテクったのだった。

袈裟丸山　　横尾

11月11日　○

桐生(8:54) ═══ 沢入(10:03) ― (11:15) 林道終点(11:40) ― (12:37) 双輪塔(12:40) ― (17:25) 賽の河原小屋(13:35) ― (14:30) 小丸山(14:45) ― (14:55) 袈裟丸小屋

足尾線に沿ってカキがみごとになっている，山は紅葉が盛りであった。ハイペースになりがち，休みも短かくなる。その為か，双輪塔を過ぎるとかなりバテギミ。しかしこのコースはほとんど急登がなく，かなり楽なコースであろう。賽の河原につくと赤城が下の方にある様な気がする。袈裟丸山から皇海山，足尾の山，男体，横根高原とそれらを眺めながら歩く。この尾根は明るく快い山旅を与える。小丸にて大休止，しばし眺望を楽しみ背中をかわかす。「ピュー」鹿の声。余裕のあるのんびりした山行を初めて味わった様な気がした。ササの中の小屋かなりしっかりしていて良いのだが，水場の水量の少ないことだけが残念だった。夜，雲が多くなり，鹿の声，「カリカリ」という小さな動物の音，すべてが気になる。しかしその寂しさも良いものである。

11月12日　● →◐

小屋(8:30) ― (9:20) 賽の河原小屋(9:25) ― (9:50) 双輪塔 ― (11:05) 沢入(11:38) ═══ (13:30) 桐生

足が寒い。雨が降り出す。一日中雨になると予想し，郡界尾根はあきらめ下山することに決める。ゴロの中は寒々とした感じを受けさせるがササの中に入ると明るく暖い雰囲気に包まれる。落葉松の林は葉を落とし一面ジュータンとなっている。沢にあるモミジの葉も，灰色に包まれた木々も，すべてが雨の為に美しくなっている，雨の日も又良きかな。

庚申山　　岡部，上山

11月11日　○

桐生(8:54) ═══ 原向(10:17) ― (11:40) 銀山平 ― (13:20) ―ノ鳥居 ― (14:30) 山荘 ⛺

快晴の秋空に映えるだいだい色に色づいたかきをみながら，同じく同方面の分散に参加の横尾さんと共に足尾線にゆられていく。途中沢入で横尾さんと別れ我々は 10:17分に原向に到着。銀山平に

国民宿舎が完成したため整備中の車道をつめる。小滝の里付近は足尾銅山の跡をしのばせ、ある感慨に我々をひたらせる。銀山平では、この間まで居た猿が死んだとかでムウーという名前のあな熊がいた。銀山平から一ノ鳥居まで平凡な林道をつめる。一ノ鳥居で林道と別れ登山道に入る。道はかなりよい道である。一ノ鳥居より30分くらいのところから猿の声がしきりに聞えてくる。しばらくするとヤブの中から姿をあらわした。シリの赤いのに感心する。庚申山神社からちょっと行くとすぐに小屋がある。山荘には、日の落ちないうちについたが、さすがに日が落ちると急に冷えこむ。山荘一泊200円（フロ，フトン付）。山荘の犬の名前はピー。

11月12日　◉→①

山荘（10:30）── 銀山平（11:50）── （13:30）通幹 ═══ 桐生

雨のため，一応4時に出発の準備だけはしておいたが結局庚申山，皇海山，松木沢を断念。雨の中を帰途につく，日曜日のためか多くの女性をまじえたグループにいくつも逢う。途中カガミ岩で根岸と南雲にあう。昨夜12時について今日の雨で帰えるところだとのこと。一ノ鳥居をすぎたあたりから雨もあがり銀山平に着いたときには青空が出て来た。車中にて横山さんに逢い，横山さんの持っていたものをすべて食べてしまった。

稲含山　　藤井

11月23日　◎

高崎（8:23）┅┅ （9:21）下仁田 ── 高倉（11:00）── 新宮（12:30）── （13:00）稲含山（14:20）── （14:30）新宮 ──（16:15）来波（16:29）═══ （17:10）富岡 ┅┅ 高崎

下仁田から南に向かって高倉部落の方に進む。この静かな山村を過ぎると浅間山，妙義山や荒船山が見え出す。林道も終り登山道に入って10分位で稲含山の鳥居が見えてくる。そこから西上州の山々浅間山，北アルプスなどが眺められ，落葉やまだら雪を踏みしめながら程なくすると社のある山頂（1370m）に着く。すぐ近くに御荷鉾山や赤久縄山があり八ケ岳も淡い姿で横たわっている。落ち着いた感じのする山頂である。下りは新宮から来波に下ってバスに乗る。ここは，晩秋の山旅……一人旅にふさわしいところである。

玉原越　　小沢

11月26日　①→◉

新前橋（8:27）═══ （9:23）沼田（9:40）═══ （10:20）迦葉山（10:20）── （10:55）弥勒寺（11:50）── （12:30）迦葉山山頂（12:30）── （12:45）白樺湿原（12:45）── （1:05）発知川（1:05）── （1:30）玉原高原（1:30）── （1:40）玉原峠（2:45）── （3:15）藤原湖（3:15）── 藤原ダム（5:12）── 水上

バスを降りて，林道を30分ばかり行くと，弥勒寺というお寺に着く。日曜日のせいか，かなりの人が

見物に来ている。お寺から一登りで山頂に着く。山頂少し手前から雲が現われ，行先が案じられる。山頂の眺望かなりよい。赤城，榛名の間には富士山までも眺められる。秋の明るい日指しを浴びながら，静かな林の中を新雪を踏みしめて歩いていると，思わずため息が出，心からうれしさがわき上がって来るのである。白樺湿原からかなりの急坂を発知川に降り，途中大膳の滝を眺め，発知川を登りつめると玉原高原である。雪30cm位積っている。ここで左手の方へ行く道を知らずに，右手の方へ行ってしまい，30分位行って磁石を見ると南へ下っている。あわててもとへもどる。玉原峠へ出ると，眼下に藤原湖がガスの間から見える。ここから一気に下ると藤原ダムである。バス時間を見ると通過時刻まで，20分前である。そこでダムを眺めながら弁当をひろげパクツイテいると、目の前をバスが通過してしまい。不正確なバス時刻にふんがいしていると，茶店のおばさんが，ストーブにあたらせてくれて，お茶までいれてくれた。1時間半もバスを待って水上へ。後で時計を見たら時計が10分おくれていたのであった。

吾妻耶山　　藤井

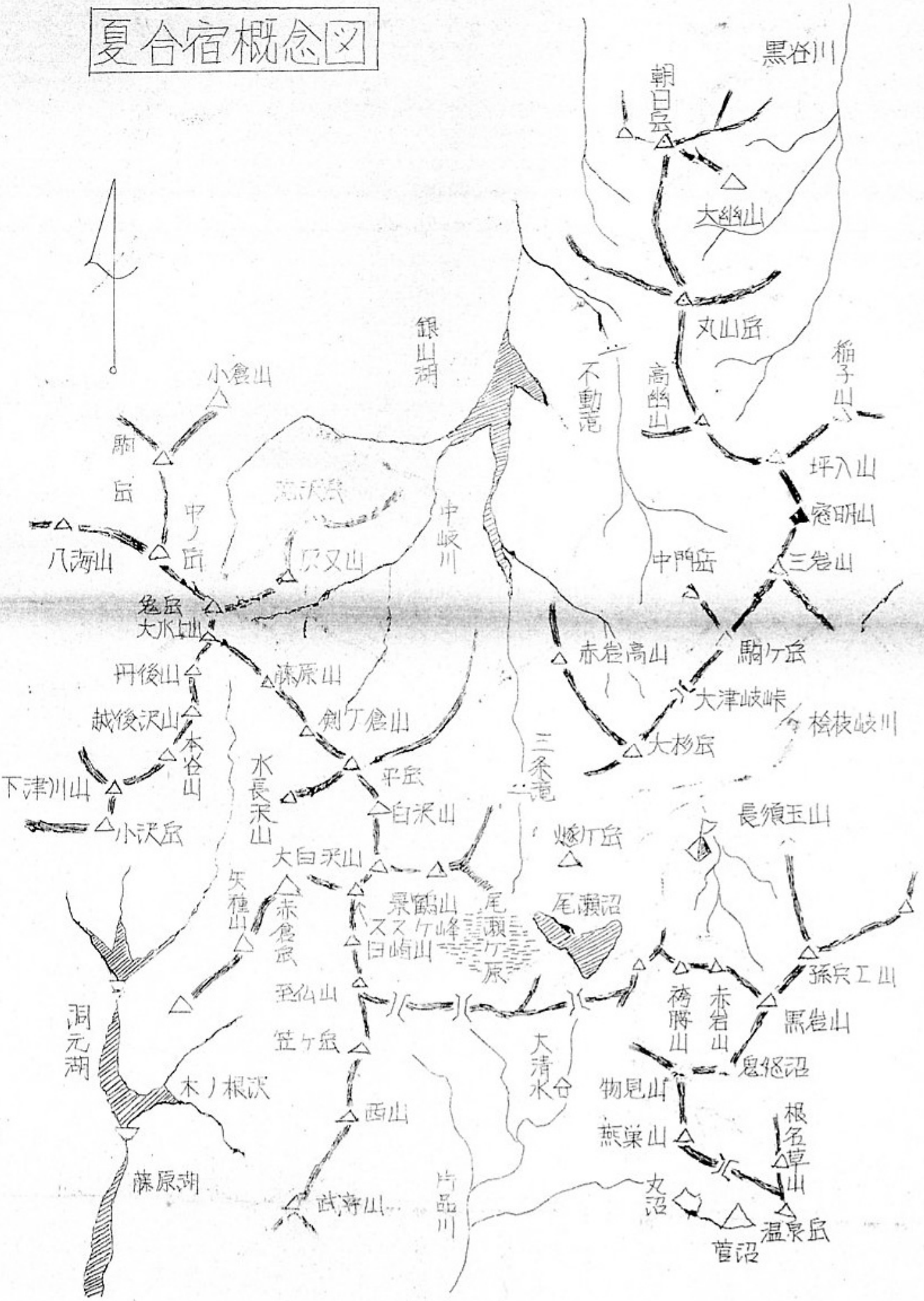
11月27日　○

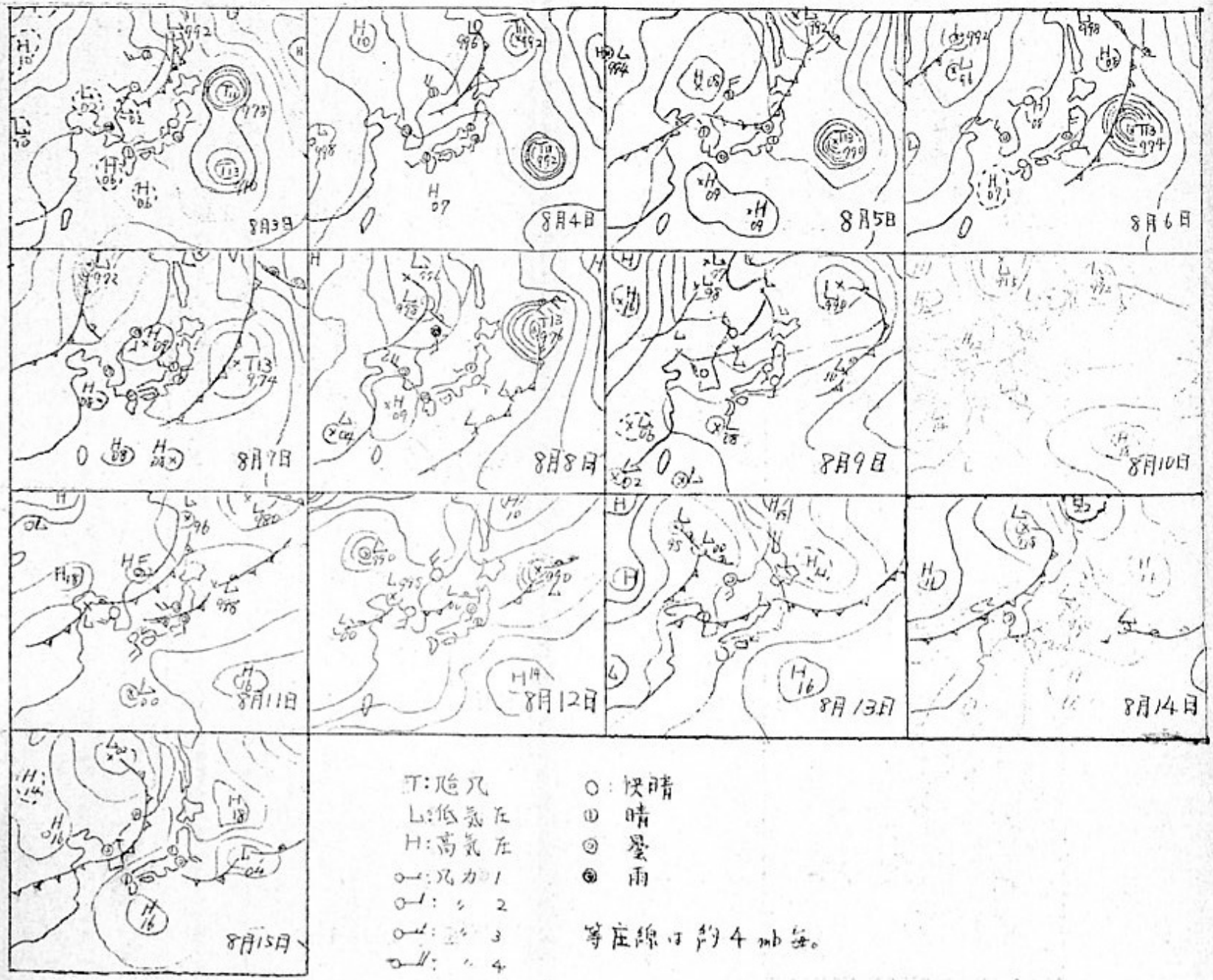
新前橋 ═══ 上牧 ― 大峯沼 ― 吾妻耶山 ― 仏岩 ― 阿能川 ― 水上 ═══ 新前橋

雲一つない日であり，雪と空の青との対比は，素晴らしいものである。

駅から対岸に渡り小和知を過ぎてしばらくするとから松林の道で20～30cm の雪道となる。体が汗ばむ頃一寸振り返えると武尊山，笠，至仏又谷川連峰が僅かばかり青空に向っている様。一人雪を踏みしめながらから松林の間を歩くのも気持が落ちついてよいものである。すると大峰沼に着く，氷が張りつめて静かに眠っている様子。一寸ひき帰し，吾妻耶山へと向かう。目の前であるがなかなか着かない。樹間から新雪の谷川連峰が望まれるので山頂での楽しさが生じてくる。大峰山からの道と合して程どなく山頂に立つ。期待以上の大パノラマである。赤城山，ケサ丸山，皇海山，日光白根山，武尊山，笠ケ岳，至仏山，谷川岳，仙ノ倉山，平標山，苗場山 etc 。雪で真白な山脈が続く。山頂から北に向けて下ると仏岩があり森林を貫けて，阿能川に下り車道に出て後は，ゆっくり水上駅に向かう。

夏合宿概念図


黒谷川
朝日岳
大幽山
丸山岳
稲子山
高幽山
不動滝
銀山湖
小倉山
駒岳
中ノ岳
八海山
荒沢岳
只又山
中岐川
坪八山
燈明山
三岳山
中門岳
兎岳
大水上山
赤岳高山
駒ケ岳
丹後山
滝原山
大津岐峠
越後沢山
剣ケ倉山
桧枝岐川
本谷山
大杉岳
下津川山
水長沢山
平岳
三条滝
小沢岳
白沢山
長須玉山
燧ケ岳
大白沢山
矢筈山
赤倉岳
景鶴山
尾瀬沼
スス ケ峰
日嶋山
尾瀬ケ原
孫兵エ山
至仏山
袴腰山
赤岩山
黒岩山
笠ケ岳
大清水
息抵沼
物見山
木ノ根沢
西山
燕巣山
根名草山
丸沼
温泉岳
菅沼
武尊山
片品川
藤原湖
洞元湖


8月3日
8月4日
8月5日
8月6日
8月7日
8月8日
8月9日
8月10日
8月11日
8月12日
8月13日
8月14日
8月15日
T:颱風
L:低気圧
H:高気圧
風力1
〃 2
〃 3
〃 4
○:快晴
①:晴
◎:曇
●:雨
等圧線は約4mb毎。

編集後記

皇海第4号発刊に際し原稿不足及び編集の不手際等ありましたがどうにか部誌らしいものになりました。本号は先の第3号とは異なり文集的，クラブ本意的なもので対外的な内容は余り有しておりません。本部誌に書かれている山行等はそれに参加した者の良き思い出となるよう願っています。なお先輩諸氏等の人達には今年のワンゲルの活動内容を知っていただくためで，これらの資料だけを山行の参考資料とするのは資料不足と存じます。コースタイム等，それに参加した者の忘却によりはなはだ不明瞭な点が多いと存じますがお許し願います。

なお今年度のワンゲルの活動をふりかえってみると夏合宿の成功を境としてクラブ各員の自覚の欠如及びクラブに対する愛着が薄れてしまったことは客観的に見ても明らかなことであった。我等三年生の人数不足及びそのための一人一人の責任の重さ等からの回避したい気持により二年生統率が全くうまくゆかなかった事が主な原因であったろう。これらのことを参考にして来年度のワンゲルの発展を心から願う。

発行者　群馬大学工学部・ワンダーフォゲル部（桐生市天神町1～221）

1966年12月

部員住所録

（現住所）
（帰省先）　　1967年12月　現在

4 W	川田祐一	足利市元学町823
4 W	小柳健次	桐生市東久方町2の82　住吉方 横浜市磯子区磯子町818
4 C	木村隆男	桐生市宮本町1505　坂口市太郎方 神奈川県平塚市南原243
4 C	黒田宏	桐生市梅田1丁目63　星野方 栃木市嘉右エ門町1の7
4 S	小島昭	桐生市本町4丁目338 〃
4 K	五十嵐信之	桐生市宮本町1399　志村方 埼玉県浦和市南浦和公団住宅42—501
4 K	金子岩男	足利市通り2丁目2743 〃
4 K	久保田耕司	太田市只上2763 〃
4 M	藤井幸吉	群馬郡群馬町菅谷1125 〃
4 M	横尾国夫	桐生市宮本町1399　吉賀方 栃木県鹿沼市西沢町335
4 E	草場彰	足利市今福町1 〃
3 W	小沢達樹	群馬郡群馬町棟高1928の99 〃
3 C	横山崇雄	桐生市相生町1の126 〃
3 S	斉藤譲	新田郡新田町上田中180 〃
3 K	原文雄	桐生市本町3丁目299　堀江邦三方 埼玉県本庄市北堀1479

3 M	江黒　茂	桐生市菱町黒川2丁目1437　小堀貞一方 埼玉県熊谷市石原1907
2 W	加藤芳彦	桐生市宮本町1505　坂口方 静岡県賀茂郡下田町5
2 W	広田雅司	高崎市日高町1124 〃
2 S	岡部宣男	足利市板倉町800 〃
2 S	中島好司	勢多郡粕川村月田1146の1 〃
2 K	上山　悟	桐生市東2丁目4の42 埼玉県児玉郡美里村地十条84
2 K	小林春司	足利市五十部町1131 〃
2 K	新沢健一	桐生市梅田1丁目202の1　峯岸邦武方 新潟県柏崎市西本町1丁目10－39
2 M	星嶋文人	桐生市東堤町2183　磯方 長野県伊那市富県6084
2 M	小堀正裕	新田郡藪塚町乾沓塚836 〃
2 M	斉藤勝男	桐生市東堤町2183　磯方 千葉県東金市菱沼111
2 M	南雲利夫	桐生市本町3丁目299　堀江方 新潟県南魚沼郡六日町八幡15の2
2 M	根岸秀幸	桐生市天神町1の639　啓真寮 東京都国立市北3丁目4番地2の2
2 M	山田定男	足利市通り3丁目3513 〃
2 E	須藤　誠	桐生市天神町1の639　啓真寮 安中市瀬623
2 E	中島恒弥	桐生市天神町1の639　啓真寮 京都府京都市右京区嵯峨二尊院門前往生院町6

2 L	堀 江 武 雄	足利市月谷町 392 〃
2 L	松 谷 衛 次	太田市内ヶ島 1574 〃
2 C	伊 藤 哲	桐生市宮本町 1460 杉戸方 新潟県加茂市加茂 1221
顧問	大 浦 勝	桐生市西久方町 1の759 麦子利一方 島根県松江市朝酌町 1098

卒業生住所録

	（勤務先） （現住所）
石坂辰己	三菱化成 福岡県北九州市八幡区南王子町南王子寮
久保田昇	新日本窒素K.K. 熊本県水俣市陣内窒素向山寮
宇多川紘	高崎市東町110
長谷川章	興国化学山辺工場研究開発部 太田市由良883
河野通利	三菱油化 三重県四日市市小古曽町1700 追分寮
奥原功	群栄化学工業 安中市下秋間字1524
岩下佳司	日清紡績富山工場 富山県富山市堀15
新井靖衛	東洋パルプ 広島県呉市広町北吉新申100 向陽寮
大島隆夫	山洋パルプ 島根県江津市郷田南寮
浅海瑛二	昭和化学工業（群馬大学工学部松井研究室 太田市鳥山1523
鳥居寛治郎	千野製作所生産技術課 藤岡市相生町836 鈴木方
見供滋忠	三菱油化 三重県四日市市小古曽町1000内新寮
関口岳男	群馬大学工学部機械工学科松居研究室 埼玉県児玉郡上里村勅使河原1158
熊谷好司	三菱電機 広島県福山市野上町2-20-2 野上寮
鳩原恵二	東芝電気器具加茂工場 新潟県加茂市上条352新町寮
秋草洋三	平岡染織草加工場 埼玉県草加市松江町7-13 同工場内
藤村孝道	日本化学 東京都江戸川区小松川3の57精美寮
内田邦夫	神戸市製鋼 神戸市灘区篠原字牛小家山1014六甲台神鋼寮

朝倉正博	日本電気玉川事業所整流管事業部技術部 川崎市 野川3139 日電野川寮
大塚光守	東芝電気㈱前橋工場ヵ2技術課 前橋市古市町180
鹿山公	精工化学 東京都北区昭和町3の8の4武藤織蔵方
小林弘一	明成商会東京営業所 東京都大田区田園調布3の46の3明成寮
髙橋浩	群馬日産総合サービスセンター 前橋市文京町1-53-10
田沼正也	日立製作所 日立研究所 茨城県日立市成沢町成美寮
深沢鼎	甘楽農業高校 富岡市七日市595 二葉花みどり寮